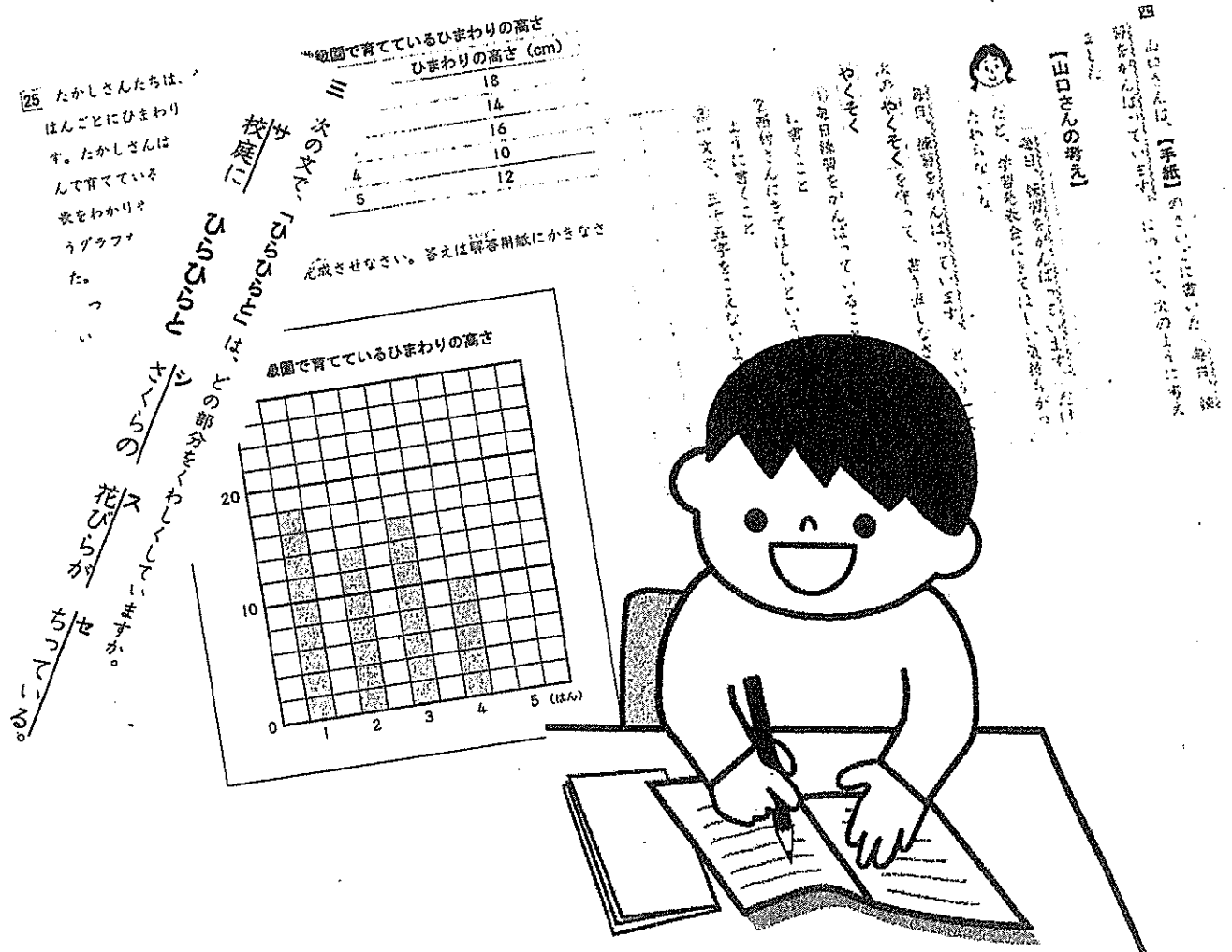


小学校 「京都府学力診断テスト」の 結果について



平成30年12月

精華町学力向上総合推進委員会（小学校部会）

目 次

1 はじめに		1
2 平成 30 年度「京都府学力診断テスト」の概要	...	2
3 「正答率の低い」典型的な問題例		
小学校4年生国語科		4
中学校1年生国語科		24
小学校4年生算数科		33
中学校1年生数学科<算数科>		39
4 小4・中1質問紙調査から見えてくるもの		46
5 京都府学力診断テストの分析から見えてきたこと	...	63
6 質の高い・わかる授業を目指して		64
～せいか授業スタンダードの確立に向けて～		
7 おわりに		65

全国学力・学習状況調査、京都府学力診断テストについて

	対象学年	実施時期	実施教科
全国学力・学習状況調査	小6	4月	国語・算数・理科
	中3	4月	国語・数学・理科
京都府学力診断テスト	小4年	4月	国語・算数
	中1年	4月	国語・数学(算数)
	中2年	10月	国語・数学・英語

※全国学力・学習状況調査の理科は、3年ごとに実施
(平成30年度は実施)

はじめに

精華町教育委員会では、学校関係者で組織する学力向上総合推進委員会を平成19年度から設置し、「全国学力・学習状況調査」の結果について、返却されたデータの詳細な分析を行い、各学校の授業改善等に資する資料として提供してきました。平成22年度からは、「全国学力・学習状況調査」が悉皆調査から抽出調査に改められたことを受け、「京都府学力診断テスト」の結果を分析し、冊子としてとりまとめてきました。

今年度も各テストの正答率と質問紙の回答状況から本町児童の課題を明らかにして、生活面・学習面を総合的に指導できるよう『指導アイデア例』や『授業改善のポイント』を記載するなど工夫されたものとなっています。

各学校においては、自校の分析により明らかとなった課題を踏まえて、「質の高い学力」を育むための有効な資料として、この冊子を研修会等の様々な場面で活用していただき、子どもたちの学力向上に努めていただきますようお願いします。

最後になりましたが、精力的に分析に携わっていただいた、精華町学力向上総合推進委員会の先生方にお礼を述べるとともに、この冊子が町内各小中学校で大いに生かされることを期待します。

平成30年12月

精華町教育委員会

教育長 川村 智

平成30年度「京都府学力診断テスト」の概要

平成30年12月
精華町教育委員会

1 京都府学力診断テストの目的

学習指導要領に示す目標や内容に照らした学習の実現状況及び児童生徒の学習環境や家庭における生活状況等の特徴や課題などを的確に把握するとともに、その結果を分析することにより指導上の課題を明らかにして、授業改善を推進し、質の高い学力をはぐくむ。

2 実施対象の児童生徒と参加状況

小学校第4学年及び中学校第1学年

受検者数 国語 小学校4年 381名、中学校1年 356名 計 737名

算数 小学校4年 381名、中学校1年 356名 計 737名

(数学)

3 実施教科と出題内容及び問題数

国語、算数の2教科

・基礎・基本に関する問題 20問

・活用に関する問題 5問

質問紙調査 小学校第4学年 48問(学校独自2問 計50問)

中学校第1学年 49問(学校独自2問 計51問)

4 実施日時

平成30年4月11日(水)～16日(月)

5 テスト結果の概要

(1) 京都府の状況

* 国語 小学校4年

○基礎・基本の問題は定着している。しかし、「読むこと」の領域に課題が見られる。

また、活用の問題については、一定の定着が見られるが依然課題もある。

国語 中学校1年

○基礎・基本の問題は定着している。各領域とも定着が見られる。活用の問題についても定着は見られる。

* 算数 小学校4年

○基礎・基本の問題は定着している。活用の問題については、一定の定着は見られる。各領域とも定着が見られる。

数学(算数) 中学校1年

○基礎・基本の問題は定着している。領域別では、概ね定着しているが、「数量関係」に課題が見られる。活用の問題については、依然課題が見られる。

(2) 精華町の状況

* 国語 小学校4年、中学校1年

総合点において、京都府・山城局双方の平均値を上回っており、良好な結果である。しかし、「書くこと」「読むこと」「伝国」の領域については、正答率が他の領域に比べ低く今後の実践上の課題である。

* 算数・数学 小学校4年、中学校1年

総合点において、京都府・山城局双方の平均値を上回っており、良好な結果である。4年は「数と計算」「図形」「数量関係」に課題がみられる。中学校1年も平均値を上回っており、良好な結果である。しかし、「量と測定」「図形」「数と計算」に課題がある。

(3) 基礎・基本に関する問題と活用に関する問題

小学校4年国語、中学校1年国語、小学校4年算数、中学校1年算数(数学)は京都府・山城局の正答率より上回っており、概ね良好な結果である。

(4) 得点別度数分布結果

度数分布表で得点49点未満の児童を見ると、精華町は京都府・山城局と比較して、基礎学力の未定着児童(成績下位群)の割合が少ない。

6 精華町全体の分析結果

(1) 学年・教科別得点分布表

* 国語 → 資料－1－1

- ① 小学校4年国語－下位層が少なく、上位層が多い。全体として右寄りの分布である。
- ② 中学校1年国語－下位層が少なく、上位層が多い。全体として右寄りの分布である。

* 算数(数学) → 資料－1－2

- ① 小学校4年算数－下位層が少ないが、分布に若干の偏りがみられる。
- ② 中学校1年算数(数学)－下位層が少ないが分布に若干の偏りがある。上位層が多い。

(2) 問題別正答率の比較 → 資料－2－1 資料－2－2

- ① 小学校4年国語・算数－国語・算数はおおむね良好な結果であった。府の正答率が低いものは、精華町でも正答率が低くなっている。
- ② 中学校1年国語・算数(数学)－おおむね良好な結果であった。府の正答率が低いものは、精華町でも正答率が低くなっている。

(3) 教科別チャート図 → 資料－3

- ① 国語－小学校4年は、領域で見ると、「読むこと」の得点が高い。中学校1年は「書くこと」「伝国」の得点が高い。
小学校4年、中学校1年ともに、「読むこと」「活用」の領域にやや課題がある。
- ② 算数－小学校4年は「数量関係」「数と計算」「量と測定」「数学的な考え方」「活用」に課題が見られる。中学校1年は、「数と計算」の得点が高い。「量と測定」「図形」「数量関係」「活用」に課題が見られる。

(4) 平成26年度からの経年比較 → 資料－4

- ① 現中学校1年の小学校4年時の結果と今年度の結果を比べると国語・算数の「基礎・基本」「活用」は伸びている。
- ② 4年間のスパンで経年比較をすると中学校1年は国語・算数ともに京都府・山城局双方の平均値を上回っている。

7 「正答率の低い」典型的な問題例及び指導改善のポイント

「正答率の低い」典型的な問題例

＜小学校第4学年 国語科＞

問題□の二 「話すこと・聞くこと」（基礎・基本／選択肢）

二 図書係は、「どんなしゅるいの本を読んでいるか」について、どのようにして調べましたか

力 「読書がすき」と答えた人にアンケートをとって調べた。
 キ 「読書がすき」と答えた人にインタビューをして調べた。
 ク 学級全体にアンケートをとって調べた。
 ケ 学級全体にインタビューをして調べた。

◇出題の趣旨

「話すこと・聞くこと」（基礎・基本）

取材の方法について選択することができるかどうかみる問題。

◇学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。

◇正答率 精華町39.1% 京都府44.3%

◇正 答 キ

◇誤答分析

	誤答分析	町 (%)	府 (%)
力	「『読書がすき』と答えた人」という対象は捉えているが、調べる方法を捉えていない。	25.6	19.7
キ	正答	39.1	44.3
ク	調べる対象と方法のどちらも捉えていない。	27.1	26.5
ケ	「インタビューをする」という方法を捉えているが、調べる対象を捉えていない。	7.8	9.2
無回答		0.4	0.3

正答は「キ」である。しかし、「力」を選ぶ誤答が25.6%（精華町）と最も多く、これは府の19.7%を大きく上回った。また、「ク」を選ぶ誤答も27.1%と多かった。

問題では、最初に、「読書が好きか嫌い」を学級全体にアンケートを行い、次に、「読書が好き」と答えた人に「どんな種類の本を読んでいるか」をインタビューしている。「力」を選んだ誤答は、調べる対象は聞き取れているが、調べる方法を聞き取れず、初めに行ったアンケートと答えている。「ク」を選んだ誤答は、初めに学級全体に行ったアンケートについて答えている。

つまり、「誰に対して」、「どのような方法で取材したのか」について、2種類の対象と2種類の方法を正確に捉え、その中から2つを選ぶことができていないために誤答が多かったと考えられる。また、聞き取れていても必要な情報を上手くメモできず、誤答となったことも考えられる。

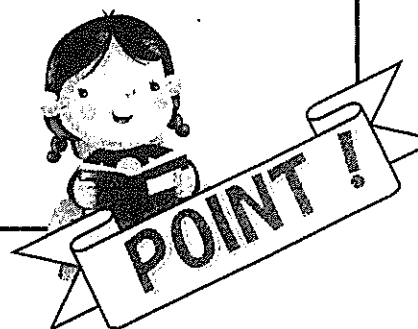
◇授業改善のポイント

今年度は、「聞くこと」と「メモをすること」について提案したい。

第1・2学年では、「大事なことを落とさないように聞く能力を身に付けさせること」を目標とし、「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと」を指導する。つまり、話し手が知らせたいと思っている事柄の大事なことを落とさないように聞くとともに、自分が聞きたい事柄の大事なことを落とさないように聞くことができるように指導しなければならない。

第1学年「ともだちに、きいて みよう」(光村図書1年下)では、「大事なことを落とさずに」聞くことを中心に学習する。聞きながらメモをするのではなく、友だちとやり取りした後にメモにまとめる活動をする。第2学年「ともさんは どこかな」(光村図書2年上)では、「大事なことを聞き落とさないようにしながら、興味をもって聞く」ことを中心に学習する。聞きながらメモをする方法を学習し、友だちとクイズを楽しみながら、メモができるように練習する。第3学年「つたえよう、楽しい学校生活」(光村図書3年)や「しりょうから分かる、小学生のこと」(光村図書3年下)では、実際にインタビューやアンケートを行ったり、資料を用いて調べたりしながら学習を進める。その際に、大切なことをメモするなど、活動の中でメモしたことをもとに、考えをまとめたり、発表したりする。

第1・2学年で系統立てて、「聞くこと」や「要点をメモすること」について学習を積み重ねられるように指導することが重要である。



改善に向けての指導アイデア例

「話すこと・聞くこと」に関する指導例

- 1 単元名 だいじな ことを おとさずに、話したり 聞いたり しよう (光村図書2年上)
- 2 教材名 ともさんは どこかな
- 3 単元目標 「まい子さがしゲーム」をしながら、大事なことを工夫して話したり、聞いたりしよう。
- 4 指導事項・学習活動
 - ① 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。
 - ・ どんなことを聞き取ればともさんを見付けられるかを考え、お知らせを聞く。
 - ・ メモをとる方法を考え、要点をメモしながら聞く。
 - ② 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉を用いて表現すること。
 - ・ 相手に伝わるように話すためには、何をどのように話せばいいか考える。
 - ・ 学習したことをいかして「まい子さがしゲーム」や「れんらくゲーム」をする。

5 指導計画（4時間）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第一次	○大事なことを落とさないように聞く。 ・CD を聞きながら「ともこさん」を探し、どんなことを聞き取れば簡単に見付けられるかを考える。 ・メモをする方法を考え、要点をメモする練習をする。	だいじなことを落とさずに、話したり聞いたり	・前段で、話し手が知らせたいと思っていることは何かを確認し、その情報から、自分が聞き取りたいことは何かを考えて聞くよう確認する。 ・メモをする目的を考えさせ、内容（どんなことを）、方法（短い言葉や記号を用いて）でメモをすればいいのかを考え、共通理解できるようにする。 ・メモをする練習が十分にできるようにする。 ・授業時間だけではなく、日常生活においても活用できるようにする。
第二次	○大事なことを落とさないように話す。 ・「大事なことを落とさないように聞く」学習を生かし、話す時のポイントを考える。 ・「まい子をさがしゲーム」を作り、友達と聞き手や話し手になってゲームを行う。		・伝える内容だけではなく、話す順序や声の大きさなどにも気を付けて話せるようにする。

問題二の三 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(基礎・基本/選択肢)

修飾と被修飾との関係を理解する

三

校庭に
ひらひらと
さくらの
花びらが
ちっ
てい
る。

次の文で、「ひらひらと」「さくらの」「花びらが」「ちっ
てい
る。」は、どの部分をくわしくしていますか。

◇出題の趣旨

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(基礎・基本)

修飾語と被修飾語との関係を理解しているかどうかをみる問題。

◇学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

(文及び文章の構成に関する事項)

◇正答率 精華町37.8% 京都府43.5%

◇正 答 セ

◇誤答分析

	誤答分析	町 (%)	府 (%)
サ	文がどのように組み立てられているかを理解していない。	1.8	2.5
シ	修飾と被修飾との関係を理解していない。	12.0	9.8
ス	修飾と被修飾との関係を理解していない。 (主語にあたる言葉を詳しくしていると捉えている。)	48.2	43.8
セ	正答	37.8	43.5
無回答		0.2	0.4

正答は「セ」である。しかし、「ス」を選ぶ誤答が48.2% (精華町) と多く、府でも43.8%と、どちらも正答を上回る結果となった。修飾語が後にある語に詳しくしていることは理解しているようである。しかし、主語にあたる「花びらが」を詳しくしていると考えている。中学校1年の学力診断テスト国語でも、同様の誤答が多い。

◇授業改善のポイント

(1) 各学年の指導計画に修飾語の学習を位置づけ、系統的・持続的に学習を進めること。

修飾語は、第3学年2学期「言葉 修飾語」で学習するが、その後、直接的に取り扱う単元はない。新学習指導要領においても、「学習の系統性の重視」が示されているように、各学年の発達段階に応じて系統的・継続的に学習を進める必要があると考えられる。

(2) 第1・2学年から、文学的な文章を学習する際に「主語と述語」の関係に注意してあらすじを読むこと。

「修飾語と被修飾語の関係」を正確に捉えるためには、その前段階において文の骨格をなす「主語と述語の関係」を正確に捉える必要がある。第1・2学年で「主語と述語の関係」に注意しながら学習を進め、第3学年で「主語を詳しくする語句」、「述語を詳しくする語句」と、どの語句を詳しくしているのかを考えていくことにより、「修飾と被修飾の関係」を正確に理解することができると考える。



改善に向けての指導アイデア例 修飾語に関する指導例

(1) 各学年の指導計画に修飾語の学習を位置づけ、系統的・継続的に学習を進めること。

1 単元の目標 修飾・被修飾の関係や修飾語の役割を理解し、主語・述語・修飾語がそろった文を書くことができる。

2 指導計画（2時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第一次	○修飾語の働きを知る。 ・文の骨格が主語と述語であることを確認する。 ・主語と述語を固定し、それぞれを詳しくする言葉を集める。 ・主語や述語を詳しくする言葉が「修飾語」であることを知る。 ・修飾語は後にある言葉を詳しくすることをつかむ。	修飾語をつかって、文作りを楽しもう。	・文を構成する成分が主語・述語・修飾語からなることを確認する。 ・修飾語を使うと、文の意味が詳しくなることを確認する。 ・修飾語は、後にある言葉を詳しくすることを確認する。
第二次	○主語・述語・修飾語のそろった文を書く。 ・例文を、主語・述語・修飾語に分け、どのように詳しくしているか矢印で表す。 ・主語と述語を指定し、それぞれを詳しくする言葉を用いて、一文を作る。 ・自分で主語と述語を決め、それぞれを詳しくする言葉を加えて、文を作る。		・修飾語を使うと、文の意味が詳しくなることを確認する。 ・主語・述語を見付け、その後、修飾語を見付けるようにする。 ・矢印を使って表すことにより、修飾・被修飾の関係を理解することができるようにする。 ・同じ主語・述語でも、用いる修飾語によって、伝わる内容が変わることに気付けるようにする。 ・主語・述語・修飾語を、それぞれ意識して文を書くようにする。

学習指導に当たって各学年の発達段階に応じた事例

	主語・述語	修飾語・被修飾語
1年生	・教科書などに出てくる文において主語と述語に気付くこと。	
2年生	・単文において主語と述語の照応に気付くこと。	・単文における修飾と被修飾との関係に注意すること。
3年生	・複文における主語と述語の関係に注意すること。	・複文における修飾と被修飾との関係をはっきりさせること。
4年生	・複雑な文でも主語と述語の関係が分かること。	・修飾語の中の連体修飾語、連用修飾語の働きの違いに気付くこと。
5年生	・いろいろな種類の文の中で主語と述語の関係を理解すること。	・文の中には、連体修飾、連用修飾のあることに気付くこと。
6年生	・主語と述語の関係を正しくとらえ、文と文の構成を理解すること。	・複雑な文でも修飾と被修飾の関係について理解すること。

(1) 第1・2学年から、文学的な文章を学習する際に「主語と述語」の関係を見付け、あらすじを読むこと。

1 単元名 おはなしを たのしもう (8時間)

2 教材名 たぬきの 糸車 (光村図書1年下)

3 単元目標 楽しんだり想像を広げたりしながら昔話を読もう

4 指導事項・学習活動

① 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げ、お話を楽しみながら読むこと。

- ・本文から時を表す言葉を見付け、「秋・冬・春」と物語の中で時間が経過していることをつかむ。
- ・本文から場所を表す言葉を見付け、それぞれの季節ごとに場所が変わっていることをつかむ。
- ・本文から「だれが・どうした」を表す言葉を見付け、あらすじを読む。

② 語のまとまりや言葉の響きなどについて考えながら音読すること。

- ・「だれが・どうした」から、音読の仕方を考えて読む。
- ・最終段落「うれしくて たまらない」から、なぜたぬきはうれしくてたまらないのかを、教材名「たぬきの 糸車」と関連付けて考え、音読の仕方を考える。

③ 主語と述語の関係に気をつけて読むこと。

- ・本文から「だれが・どうした」を表す言葉を見付け、あらすじを読む。

5 指導計画（8時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第一次	○物語のあらすじを読む。 - 全文を読み、「心が動いたところ」を交流する。 - 時や場所を表す言葉を見付ける。 - 音読する場面を決め、練習する。 - それぞれの場面での登場人物の行動（主語と述語）を読み取り、物語のあらすじを読む。 - たぬきやおかみさんの行動から音読の工夫を考え、練習する。	みんなで たのしく 音読しよう。	「～が」「～は」を見付けることで、登場人物の行動を読み取れることを確認する。 - 本文中には、修飾語も出てくる。述語を詳しくする言葉を読み取ることにより、3学年の修飾語の学習につなげられるようにする。
第二次	○たぬきとおかみさんの心の交流を読む。 - 秋と春のたぬきの行動の違いから、おかみさんとたぬきの心の交流を読み、音読の仕方を考える。 - 音読の練習をする。 「うれしくて たまらない」から、なぜたぬきは嬉しくてたまらないのかを、教材名「たぬきの 糸車」と関連付けて読み、音読の仕方考える。		- 叙述に基づいて音読の仕方を考えられるようにする。 - 教材名が「たぬきの恩返し」ではなく、「たぬきの糸車」となっていることに関連付けて読み進められるようにする。 - 擬音や擬態語を工夫して読むことにより、音読に楽しんで取り組めるようにする。
第三次	○音読発表をする。 - 学習したことを振り返り、互いに音読し合う。 - 音読発表の感想を伝え合う。		様々な形式で音読できるようにする。

2年1学期「ふきのとう」や「すてきなぼうし」、2学期の「お手紙」も、文学的な文章を学習する際に「主語と述語」の関係を見付け、あらすじを読む取り組みを行うようにする。そして、2年2学期「ことば 主語と述語」の学習、3年2学期「言葉 修飾語」の学習へとつなげていきたいと考える。

三 山口さんの学級では、学習発表会のあんないの手紙を書くことになりました。山口さんは、いつも登校の見守りをしてくださっている西村さんに、次のような【手紙】を書きました。

【手紙】

西村 よーおさんへ

こんにちは。

サ

いつもわたしたちのために見守りをしてくださってありがとうございます。

学習発表会についてお知らせします。

日 時 五月二十五日 金曜日 午前十時から

場 所 体育館

内よう 学級ごとの歌や合奏、調べたことの発表

シ

わたしの学級は、「モナモナの木」の音読を発表します。みんなで役わりを決めて音読をするだけでなく、ピアノに合わせて歌も歌います。

①

わたしたちの発表のじゅん番は三番目なので、十時半から始まります。

ス

体育館で使うはきものを持ってきてください。よろしくおねがいします。

毎日、練習をがんばっています。

四月二十三日

山口 やくら

セ

◇出題の趣旨

「書くこと」(活用/記述)

文と文との続き方に注意しながら一文にして書き直すことができるかどうかをみる問題。

◇学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕

B 書くこと

ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。



【山口さんの考え】

「毎日、練習をがんばっています。」だけ
だと、学習発表会にきてほしい気持ちがあつた
たわらない。

毎日、練習をがんばっています。という一文を
次の「書くこと」を守って、書き直してください。

「書くこと」

① 毎日練習をがんばっていることをつたえるように書くこと

② 西村さんにきてほしいという気持ちをつたえるように書くこと

③ 一文で、三十五字をこえないように書くこと

◇正答率 精華町38.0% 京都府39.2%

◇正答例 毎日練習をがんばっているので、ぜひ見にきてください。(26文字)

◇誤答分析

	誤答分析	町 (%)	府 (%)
ア	正答：問題に示した条件①～③を満たして書いている。	38.0	39.2
イ	③の条件は満たしているが、①②のいずれかの条件を満たしていない。	15.1	14.4
ウ	③の条件は満たしているが、①②のどちらの条件も満たしていない。	5.7	6.5
エ	イ、ウ以外の誤答	34.9	34.1
無回答		6.3	5.8

「毎日、練習をがんばっています。」という一文に、次の3つの条件を付け足して書き直す問題である。

- ① 毎日練習をがんばっていることをつたえるように書くこと
- ② 西村さんにきてほしいという気持ちをつたえるように書くこと
- ③ 一文で、三十五字をこえないように書くこと

「一文で書けているが、①②のいずれかの条件のみしか満たしていない」誤答が15.1%と多く見られ、「一文では書けているが、①②のどちらの条件も満たしていない」誤答が5.7%であった。また、本問は、他問と比べて無回答が6.3%と比較的多く見られた。

◇授業改善のポイント

手紙を書く学習活動は、第1学年「てがみで しらせよう」(光村図書1年下)で取り扱っている。ここでは、簡単な手紙を書くことが目標であり、児童は自分の生活経験をもとに、短い手紙を書く。

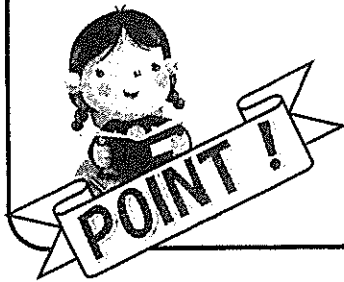
第2学年では、手紙を書く教材はない。「こんなもの、見つけたよ」(光村図書2年上)では、日々の生活の中で見つけた自分なりの発見を、分かりやすく知らせる文章を書く。「初め」「中」「終わり」の基本的な文章構成に気を付けて書く最初の単元となっており、「終わり」の部分では、文章全体を締め

くくる文を書く。

第3学年では、『ありがとう』をつたえよう（光村図書3年上）で、事例や理由を挙げて本格的な手紙を書く。ここで扱う手紙は、作文のように長々と文章を書くものではなく、ある程度の字数制限のあるものである。そのため、児童は分かりやすく伝えるために、内容を厳選し、端的に述べなくてはならない。ある程度の字数制限を設けて文章を書く活動は、様々な授業場面においても活用できると考えられる。例えば、学習の振り返りをノートにまとめる活動では、文字数制限と同時に、用いる言葉を指定することで、児童は条件にあった文章を書く必要がある。このように、文字数や語句の条件を設けて

文章を書かせる活動も、日常的に必要であると考ええる。

また、本問では、「毎日練習をがんばっています。」という文と、「西村さんに見に来てほしい。」という文をつなげて、一文で表さなければならない。そのため、二文を一文に表す学習も大切であると考えられる。



改善に向けての指導アイデア例

- 1 単元名 気持ちが伝わる手紙を書こう（5時間）
- 2 教材名 「ありがとう」をつたえよう（光村図書3年上）
- 3 単元目標 用件や気持ちが伝わるように手紙を書こう
- 4 指導事項・学習活動
 - ① 目的や必要に応じて、気持ちが伝わるように書き方を工夫した手紙を書くこと。
 - ・手紙を送る相手を決める。
 - ・手紙の型を知り、手紙を書く。
 - ・語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書く。
 - ・宛名書きをする。
 - ② 相手や目的に応じ、敬体と常体を使い分けて書くこと。
 - ・文末の表現を工夫する。

5 指導計画（5時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第一 次	○手紙を送る相手を決め、内容を考える。 - 相手に喜んでもらう手紙を書くために大切なことを交流し、手紙を送る相手を決める。 - 手紙の内容を決める。	「ありがとう」の気持ちがつたわる手紙を書こう	- 今までに手紙をもらった経験を交流し、だれに、どんな「ありがとう」を伝えるかを考えられるようにする。 「どんなことがあったのか」「どんな気持ちになったのか」を考え、できるだけ具体的にメモできるようにする。
第二 次	○手紙の型にそって、内容を考える。 - 手紙の型を知る。 - 型にそって、伝えたい内容がよく分かるように内容を考える。		- 手紙は、「はじめのあいさつ」「本文」「むすびのあいさつ」「後づけ」の四つの部分からできていることを確認する。 - 手紙には、文字数に制限があり、語と語や文と文の続き方に、注意しながら、つながりのある文章を書かなければならないことを確認する。
第三 次	○手紙を書き、送る。 - 手紙を書き、読み返す。 - 宛名を書き、手紙を送る。		- 手紙を送る相手に応じて、文末の表現や言葉遣いを工夫できるようにする。 - 文字の間違いや、言葉遣いに誤りがないかを確認する。 - 相手の住所と名前、自分の住所と名前を書くことを確認する。

- 1 単元名 おはなしを 音読しよう（10時間）
- 2 教材名 ふきのとう（光村図書2年上）
- 3 単元目標 だれが、どうしたかが、きく人によくわかるように、音読しよう
- 4 指導事項・学習活動

- ① 「人物」をもとに役に分かれ、語のまとまりや響きに気を付けて音読すること。
 - ・登場人物を確認し、誰が話している会話文なのかを読む。
 - ・まわりの様子や登場人物の行動（言動）から、音読の仕方を考える。
- ② 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
 - ・音読の仕方を工夫し、グループごとに音読発表をする。
- ③ 本文中の文型を参考にして、つながりのある文を書くこと。
 - ・「～と、・・・・。」の文型を使って、2つの文を1つの文にする。

5 指導計画（10時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第一次	○登場人物の行動（言動）を読む。 ○グループごとに音読発表をする。 ・全文を読み、登場人物を確認する。 ・音読する場面を決め、練習する。 ・会話文（「 」）は、誰が話したのかを見つける。 ・役割を決め、練習する。 ・まわりの様子や登場人物の行動から、音読の仕方を考える。 ・工夫しながら音読練習をする。	だが、どうしたか、きく人にわかるように音読しよう	・線を引ながら全文を一人で読み、登場人物を確認する。（個人→グループ→全体） ・確認した登場人物を使って、誰が話しているのかを見つけられるようにする。 ・主語と述語に注意して、会話文を読み取れるようにする。 ・シールなどを使って、誰が話したのかを視覚的にも分かるようにする。 ・まわりの様子や登場人物の行動を叙述に沿って読み取り、音読の仕方につながるようにする。
第二次	○音読発表会を開く。 ・グループごとに練習をする。 ・音読発表をする。		・声の大きさや、スピード、体の向きなど、叙述をもとに考えながら工夫できるようにする。 ・グループ内やグループ同士など、様々なアドバイスを受けられるように工夫する。
第三次	○<u>二つの文を一文にまとめる。</u> ・絵を見て、主語と述語がそろった文を作る。 ・2つの文を1つの文にする。 ① 春風がふく。 ② 竹やぶがゆれる。 ⇒春風がふくと、竹やぶがゆれる。		・文には主語と述語が必要であることを確認し、主語と述語がそろった文を書けるようにする。 ・「～と、・・・・。」を使って、一文にできるようにする。

四 次の文章を読んで、問題に答えなさい。
(①～⑧は、だん落の番号です。)

① 人間にもひげはありますが、人間のひげは、短く切ったりそり落としたりしても、生きていくうえには不自由はありません。ところが、ネコは、ひげを切られると、動きがにぶくなってしまいます。それはなぜでしょう。

② ネコのひげは、ちよつと見ると、ふつうの毛が長くなっただけのように見えますが、そうではないようです。ネコのひげには、人間とちがつて、とくべつなくみとはたらきがあります。

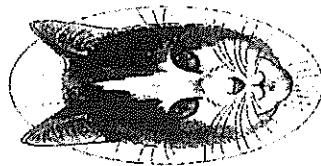
③ 人間のひげや毛は、物にさわると感じます。これは、ひげや毛が動くとき、それにつれて根もとの皮膚が動き、その動きが、そのまわりのしんけいをしげきするからです。

④ それに対して、ネコのひげは、ちよつと何かにさわっても、すぐに分かる、感じる力のとてもするどいひげです。このひげを触毛と言います。ネコの触毛は、皮膚から直せつ生えているのではなく、えきがいつぱい入ったふくろの中に、ういていのように生えています。ですから、触毛の先が何かにちよつとさわっただけでも根が動きます。根のまわりは、しんけいが輪のように取りまいていて、触毛が少しでも動けば、すぐにしんけいにさわりまわります。

⑤ このような触毛は、どんなけものにもあります。ゴリラやチンパンジーにも、小さい触毛が少しあります。けれども、人間にだけはありません。

⑥ では、ネコの触毛は、主に、どんなことに役立っているのでしょうか。

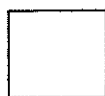
⑦ ネコが顔の触毛を広げると、顔を取りまく大きな円ができます。ネコは、この円の直径と同じはばがある所なら、どこでも通りぬけられます。ネコは、触毛を使って、通れるかどうかを決めることができます。



⑧ ネコは、えものを見つけると、見うしなわないうように、しっかりと見つめたまま近づいていきます。この時、ネコは、あごで地面をこするようにして、前足をふみ出します。これは、触毛で地面をさぐりながら進んでいるのです。ネコが、えものを見つめたまま、足もとを見ずに進んでも、物にぶつからないのはそのためです。

「ネコのひげ」 折井英治

(学校図書 平成二十七年年度版 みんなと学ぶ小学校国語 三年下)



の
だ
ん
落

二 「ネコの触毛が役立っていること」を、せつめいするための問いが、書いてある
だん落はどれですか。上の文章の①～⑥のだん落の番号からえらんで書きなさい。

◇出題の趣旨

「読むこと」(基礎・基本/選択肢)

段落相互の関係を捉えることができるかどうかをみる問題。

◇学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

◇正答率 精華町 23.6% 京都府 23.6%

	誤答分析	町 (%)	府 (%)
ア	正答：⑥	23.6	23.6
イ	⑦又は⑧	27.1	26.1
ウ	①	13.5	12.3
エ	イ、ウ以外の誤答	33.3	36.2
無回答		2.5	1.8

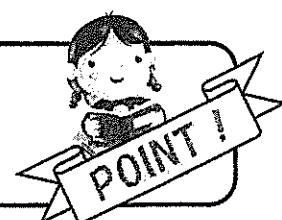
◇正答 ⑥

◇誤答分析

正答は「⑥」である。しかし、正答を選ぶことができたのは23.6%と学力診断テストの中で最も低い結果となった。⑦や⑧の段落を選んでいる誤答では、「ネコの触毛が役立っている」事例を選んでいる。①の段落を選んでいる誤答では、文章中にあるもう一つの問い「ネコは、ひげを切られると、なぜ動きがにぶくなるのか。」を選んでいる。どちらも、段落相互の関係を正確に捉えられていないと考えられる。

◇授業改善のポイント

段落相互の関係を正確に捉えることに課題が見られるため、全文シートを用いるなど、段落と段落のつながりを考えながら、全文シートを用いて段落のつながりを意識した授業を行うなど、文章展開を捉えるような授業改善が必要となる。



改善に向けての指導アイデア例

「読むこと 説明的な文章の解釈」に関する指導例

- 1 単元名 考えの進め方をとらえて、科学読み物をしょうかいしよう（読むこと7時間）
- 2 教材名 ありの行列（光村図書3年下）
- 3 単元目標 「問い」から「答え」までの考えの進め方を、段落のつながりに気をつけて読み、科学読み物をえらび、しょうかいしよう。
- 4 指導事項・学習活動
 - ① 実験と考察に注意しながら各段落の内容を読み取り、論の進め方を適切に捉えること。
 - ・「問い」と「答え」や「気付いたこと」や「疑問」を見付けながら、文章を「初め」「中」「終わり」の3つに分ける。
 - ② 科学読み物を紹介するために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したりまとめたりすること。
 - ・最初の行列と最後の行列を比べ、2つの行列の違いに気付き、簡単に解き明かされたわけではないことを読む。
 - ③ 指示語や接続語には、文章の論理的な関係を作る働きがあることを理解すること。
 - ・段落のはじめの言葉に注目して読み、考えの進め方を捉える。
 - ④ 文章の内容と感想を発表し合い、一人一人の捉え方に違いがあることに気付くこと。

5 指導計画（7時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第一次	○全文を読み、内容の大体を捉える。 ○紹介する科学読み物を決め、文章の組み立てを考える。 ・全文を読み、心を動かされた部分を交流する。 ・全文を読み、文章を「初め」「中」「終わり」に分ける。 ・紹介する科学読み物を決め、「初め」「中」「終わり」に書く内容を考える。	考えの進め方をとらえて、 科学読み物をしようかいしよう	・科学読み物を教室に置き、並行読書ができるようにする。 ・児童自身が本文を読むことで、最後まで自力で読む力を付けるようにする。 ・「問い」「答え」がどの段落にどのように書かれているかを確認めながら読むようにする。
第二次	○最初の行列と最後の行列を比べて読み、論の進め方を捉える。 ・最初の行列と最後の行列を読み取り、それぞれを図に表す。 ・図から、違いを考える。 ・「問い」「答え」までの論の進め方を読む。 ・「調べたこと」と「考えたこと」を読み分ける。 ・「中」に書くことを考え、接続詞を使って、文章を書く。		・最初と最後の行列をそれぞれ図に表し、その違いを見付けられるようにする。 ・「ありの行列」が疑問を解き明かしていく文章であることに気付けるようにする。 ・接続語や指示語を手がかりに、論の進め方が分かるようにする。 ・文末表現「～た。」「～です。」に着目し、「調べたこと」と「考えたこと」を読み分けられるようにする。
第三次	○「ありの行列」を読んだ感想を交流し、科学読み物を紹介する。 ・「ありの行列」の内容を簡単にまとめ、自分の感想とその理由を交流する。 ・紹介する文章を書く。 ・科学読み物を紹介する。		・友だちの感想と自分の感想を比べながら交流できるようにする。 ・簡単なモデルを示し、文章の内容と自分の感想を発表できるようにする。

「それまでのあらすじ」

ふ 事をして いる父と母。 春も近いある日の朝、とつけた雪がが 氷の ように かたまる、 「かた雪」 になつて いた。 兄と ば ぐくは、 犬のクマも いうし、 一とこまで も いた。 兄と ば ぐく こと けんた。 いとこを けつ、 せいし、 ピンネシリの 山ま まで 行 た 妹は なき 出して しまつた。 拾いは づづき、 手が こごえ

「ほんとに、たすかったよ。今日はもういいからね。」
父さんと母さんは、ぼくらにれいを言っ、て、二人だけで
またえだ拾いをつづけました。

「お兄ちゃん、行くぞ。」

「お兄ちゃん、声をひそめて言いました。どこまでもどこまでも行きたいんじょうは、ふめつなのだ。」

うのです。つかり日がくれたのに、これからたんけんに行くとい

きつと、しかられるにちがいないありません。
でも、かた雪の日なんて、めったにあ

りません。どこまでもどこまでも行ける
もう、これつきりかもしれな

「さう、行くぞ。」

「あたくしは、行くぞ。」馬うま そりをおしました。

そりにとびのりしました。ちやつかり馬



タギ、リがゆるゆるとながれていました。

まですす^かず^かで^した。キ^シツ^ツキ^シツ^ツと、雪^{ユキ}の^ノき^しし^ぶ音^ネし^かか^聞こ

えません。……
 ぼくらは青いかげをふみながら、どこまでもどこまでも

だまされて馬そりをおし、しつづけをました。とていふに、

なだらかなおかに、馬そりをおし上げて、ひといきつき、

用が上つていきました。

「ぼくは、雪野原の中に、ぼつんと黒くうか
び上がっているのが、ぼくらの家でした。家をとりかこむ」

「よ、う、や、に、か、く、り、ん、ご、煙、が、広、が、つ、て、い、ま、す。ピ、ン、ネ、シ、リ、の、山、は、

「お見直しやばんだらひたよ。」と言のようにつづやきました。

「いん」
と、いんは、うなずき、おした。

「ほー、うん、い気もちになりました。」

と、お兄ちゃんが言いました。

「ばくじい！」

「うちは、そろりそろりと馬を、おして、ばつととびのりまし

馬そりには、音けむりをあげながらおかをかけ下り、そして

かた、雪の日は、それきりでした。

今、雪が降る。雪の日は五月五日になる。りんごの木たちは、

雪のように、白い花です。

「りんごの花」 後藤竜二 (教育出版 平成十二年度版 国語二上)

一 石川さんは、音読をするために、場面の様子を見ながら読んで読み、次のように発言しました。

わたしは、① 場面でお兄ちゃんが言った「おい、行くぞ。」という言葉が心にのこりました。なぜならこのときお兄ちゃんは…（発言はつづく）

（二）① に当てはまるものはどれですか。

ア えだ拾いをつづけている
 イ これからたんけんに行こうとする
 ウ 馬そりをおしつづけている
 エ なだらかなおかで、ひといきついている


 石川さん

◇出題の趣旨

「読むこと」（基礎・基本／選択肢）

場面の移り変わりに注意しながら自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題。

◇学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

◇正答率 精華町 36. 2% 京都府 38. 1%

◇正答 イ

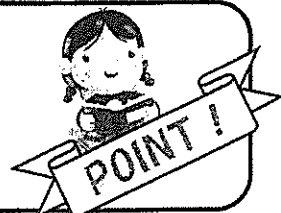
◇誤答分析

	誤答分析	町 (%)	府 (%)
ア	「えだ拾いをつづけている」場面から、「これからたんけんに行こうとする」場面に移り変わっていることを捉えていない。	47. 9	47. 1
イ	正答	36. 2	38. 1
ウ	「おい、行くぞ。」というお兄ちゃん言葉は、探検に行こうとする場面での言葉であることを捉えていない。	8. 6	9. 6
エ	「おい、行くぞ。」というお兄ちゃん言葉は、探検に行こうとする場面での言葉であることを捉えていない。	3. 6	3. 1
無回答		4. 4	2. 1

正答は「イ」である。「ア」の誤答は47. 9%と多く、場面が移り変わっている様子を正確に読み取ることができていないと考えられる。

◇授業改善のポイント

学力診断テストでは、児童は初めて出会う文章を自力で読む。しかし、実際の授業場面では教師の範読によって文章に出会うことが多い。そこで、児童には文章を自力で最後まで読む力を付けさせたい。そのためには、児童自身が文章を読む目的を明確に持ち、主体的に学ぶ授業改善を行う必要がある。



改善に向けての指導アイデア例 「読むこと 文学的な文章の解釈」に関する指導例

- 1 単元名 場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう（10時間）
- 2 教材名 ちいちゃんのかげおくり（光村図書3年下）
- 3 単元目標 場面ごとに、どんな出来事があったのかをとらえ、何がかわったのかを考えよう。
心をうたれた場面を中心に、感想をまとめよう。

4 指導事項・学習活動

- ① 場面の移り変わりに注意しながら読み、登場人物の行動・情景会話などの表現に着目して読むこと。
 - ・登場人物の気持ちが分かる行動（言動）を見つけ、そこから想像できることを話し合う。
 - ・二つの場面の「かげおくり」を比較して読み、その間に起こった出来事を、登場人物の行動や会話、情景から読み取り、話し合う。
 - ・第五場面について話し合う。
- ② 心を打たれた場面を中心に感想をまとめて発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと。
 - ・人物の気持ちの変化を読み、心を強く動かされた場面について、感想をまとめる。
 - ・互いに発表し合い、違いについて交流する。

5 指導計画（7時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に 位置付けた言語活動	指導上の留意点
第二次	○あらすじを読む。 ・プロローグを読む。（第一場面） ・ちいちゃんの家族がどうなってほしいか考え、交流する。 ・ちいちゃんの家族がどうなったかを確かめるために、全文を読む。		・ちいちゃんや家族について叙述に基づいて読み、想像が膨らむようにする。（第一場面） ・児童自身が考えた物語になっているのかを確かめるために、全文を読むようにする。 ・物語の大まかなあらすじをつかんでから、初発の感想を書くようにする。 ・「主語と述語」を手がかりに、あらすじをつかませる。
第二次	○出来事やまわりの様子から、登場人物の気持ちを考えながら読む。 ・第一場面と第四場面の「かげおくり」を比較する。 ・二つの「かげおくり」の間の出来事を読み、ちいちゃんの気持ちの変化を考える。 ・第四場面と第五場面の出来事を読み、第五場面がある意味を考える。	場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう	・叙述を基に、二つの「かげおくり」を比較できるようにする。（第一場面と第四場面） ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を読み、ちいちゃんの気持ちの変化を捉えられるようにする。 ・第四場面と第五場面は同じ場所であることを確認し、自分たちの生活とつなげて考えられるようにする。 ・第四場面の最後の一文に着目し、ちいちゃんの家族だけに起こったことではないことを捉えられるようにする。
第三次	○いちばん心を打たれた場面を中心に、感想を書く。 ・感想を書く。 ・感想を交流する。		・登場人物の気持ちや場面の様子を想像できるよう板書や教室掲示を工夫する。 ・簡単なメモを作り、「初め」「中」「終わり」の文章構成を考えて書けるようにする。 ・友だちと感想を交流し、感じたことや考えたことを発表し、自分の考えを深められるようにする。

「正答率の低い」典型的な問題例

<中学校第1学年 国語科>

問題2二

二 次の文で「ゆっくりと」は、どの部分をくわしくして
いますか。次のア、エから一つ選びなさい。
… 答の番号 [7]

ゆっくりと
ボートが
こちらの
岸に
近づく。

ア
イ
ウ
エ

◇出題の趣旨

文の構成について理解しているかどうかをみる。

◇学習指導要領における領域・内容

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があること
について理解すること。

(文及び文章の構成に関する事項)

◇正答率

精華町 64.0%

(京都府 62.6%)

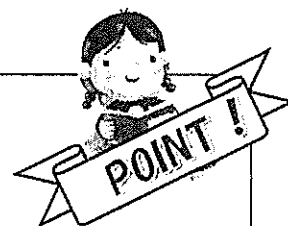
◇正答 エ

◇解答類型・誤答分析

ア	名詞と助詞で構成された文節（「ボートが」）を選んでいる。	31.2%
イ	名詞と助詞で構成された文節（「こちらの」）を選んでいる。	1.1%
ウ	名詞と助詞で構成された文節（「岸に」）を選んでいる。	3.7%
エ	正答	64.0%
無回答		0.0%

正答は「エ」であるが、町内で最多の誤答は「ア」で31.2%であった。修飾語と被修飾語が離れている場合、関係性を理解せずに修飾語の直後の言葉を選んでしまったり、主語にあたる言葉を選んでしまったりする傾向が見られる。

◇授業改善のポイント



中学年では、主語と述語の関係の理解に加え、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるようにする。そして、各学年の指導計画に修飾語の学習を位置付けて、系統的・継続的に学習に取り組む必要がある。また、説明的な文章や文学的な文章の中で、修飾語と被修飾語の関係を意識させて文章の構成をとらえさせることも大切である。

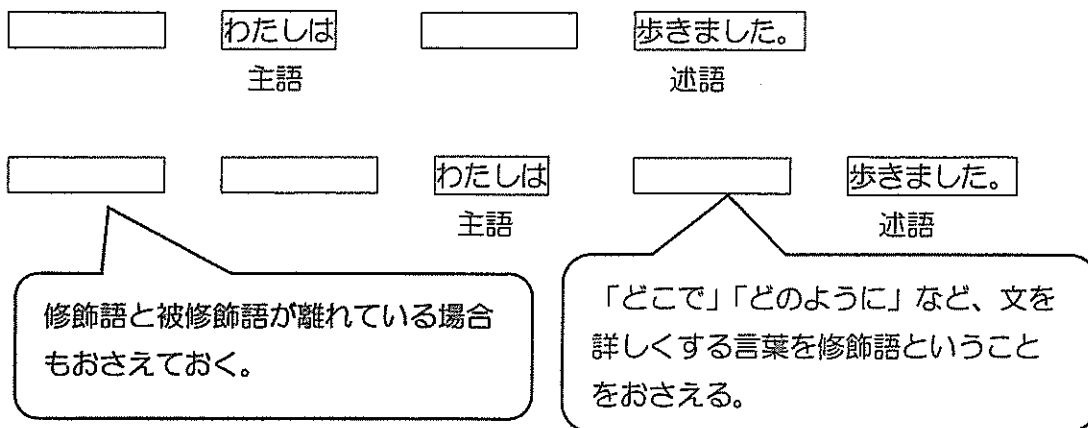
改善にむけた指導アイデア例

○学習例 修飾語に関する指導例

(朝学習・宿題プリント等で継続的に取り組む指導例)

①修飾語の働きについて理解させる指導

主語と述語からなる文に、修飾語を加えて文を詳しくする学習活動を通して、修飾語の働きを確認させる。どの修飾語がどの語を修飾しているか確認する。



②修飾語・被修飾語の関係を定着させるための指導

文節で切った文を示し、まず、主語と述語を確認し修飾語、被修飾語に着目させ、働きを確認させる。

例文 昨日 青い 魚を 近くの 川で つかまえた。

(1) 主語と述語だけの文にする。

魚を つかまえた。

(2) 修飾語が詳しくしている言葉を探させる。

青い → 魚を

川で → つかまえた。

(3) 修飾語と(被修飾語)が離れた文にも取り組ませる。

昨日 → つかまえた。

(4) 修飾部の中での修飾・被修飾の関係もおさえる。

近くの→川で → つかまえた。

(5) 定着を図るために、朝学習や授業の中で継続的に取り組む。

(授業においての指導展開例)

① 「わたしは 京都の おじいちゃんに 長い 手紙を 書きました。」

この文のどの部分が「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」に当てはまるか考える。

② 主語と述語のみの文と、それに「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などの修飾語も付け加えた文の2つを作成する。

例：わたしは あげた。

わたしは 弟に 丸い ボールを あげた。

ぼくは 買いました。

ぼくは きノウ 母に プレゼントを 買いました。

③ 修飾語を使ったゲームを行う。

(1) 作った文のうち修飾語にあたる言葉を1つにつき1枚ずつカードに書く。

例：弟に 丸い ボールを きノウ 母に プレゼントを

(2) 班の人全員分のカードを袋の中に集める。

(3) 順番に1枚ずつカードを引いていく。

(4) 先に書いた主語と述語のみの文に修飾語を付け加えて、文にする。

(5) できた文をノートに記録する。

※修飾語・被修飾語の関係を考えながら文作りを楽しむ。

④ できた文を班で交流し、振り返りを行う。

問題 3

3 南さんは、次のような疑問を解決するために、複数の文章を読みました。

最近「減塩」「塩分ひかえめ」などと書かれた商品があり、塩の取りすぎはよくないという話をよく聞く。人間にとって塩は必要ないのだろうか。



【文章 1】

塩は、人間にとって必要なもので、他のものでは置きかえることのできない働きをしています。また、わたしたちが健康にくらしていくうえで、とても大切なものです。

塩は、体の中では、人間の体の六十〜七十パーセントをしめる水分にとけこんでいます。ざっと計算してみると、体重が五十キログラムの人だと、およそ、白グラムの塩が体の中で働いていることになります。

体の中にとけこんだ塩は、大きくまとめると次のような働きをしています。

第一に、塩は、決まったこきで血液などにとけこむことで、体の中の水分の量を調整する働きをしています。第二に、塩は、消化液の働きを活発にするなどの働きをしています。

この他にも、塩にふくまれるナトリウムは、体を動かすとき、筋肉の収縮を助けるなどの働きがあります。

塩が大切なのは、体の中だけではありません。塩は、わたしたちが食事をする時の調味料としても、とても重要な働きをしています。昔から料理の修業で、「塩ふり

三年」と言われるように、塩加減は、食べ物のうまみを引き出す最も大切で、しかも、わずかしいものなのです。

南さんは疑問を解決するために、【文章 1】を読みました。

筆者は【文章 1】で、「塩は人間にとって必要なか」について説明するために、いくつの働きを取り上げていますか。最も適切なものを、次のア〜エから一つ選びなさい。

…答の番号【13】

ア 二つ イ 三つ ウ 四つ エ 五つ

◇出題の趣旨

筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握できるかどうかをみる。

◇学習指導要領における領域・内容

C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

◇正答率

精華町 32.6%
(京都府 30.0%)

◇正答 ウ

◇解答類型・誤答分析

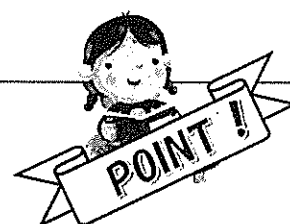
ア	「第一に」「第二に」という言葉に着目して事例を捉えているが、「この他にも」等の言葉に着目して事例を捉えることができていない。	29.9%
イ	「第一に」「第二に」「この他にも」という言葉に着目して事例を捉えているが、「体の中だけではありません。」という言葉に着目して事例を捉えることができていない。	25.8%
ウ	正答	32.6%
エ	4つの働き以外の「働き」という言葉も事例として捉えてしまっている。	11.7%
無回答		0.0%

正答は「ウ」である。誤答は「ア」で 29.9%、「イ」で 25.8%と両方合わせて過半数を超えている。「働き」という言葉や、順序を表す言葉に着目して、文章全体の構成を把握することができていない。「第一に」「第二に」という言葉だけでなく、「この他にも～の働きがあります。」や「体の中だけではありません。塩は～な働きをしています。」という言葉に着目できずに誤答となっている。

◇授業改善のポイント

目的や意図に応じて、文章の内容を的確に

押さえながら要旨をとらえることが大切である。要旨は、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄、あるいはそれについての書き手の考えなどである。要旨をとらえるためには、児童が目的意識をもって内容の中心や書き手の考えを読み取ることができるように指導することが必要である。また、文章全体における段落の位置と役割を押さえたうえで、事象と感想、意見がどのように関係付けられているかを中心語句や中心文、文末などの表現を手がかりに指導することが重要である。



改善にむけた指導アイディア例

○学習例 「読むこと」に関する指導例（光村図書6年：「時計の時間と心の時間」）

- 1 単元の目標 事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉え、自分の考えを発表する。

2 指導計画（6時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に位置付けられた言語活動	指導上の留意点
第一次	- 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 「時計の時間と心の時間」を通読し、書かれている内容を確認する。		- 筆者の意図を捉えるとともに、自分の考えをもちながら読んでいくことを確かめる。 - 事例を挙げることの有効性について考えさせる。
第二次	- 文章全体の構成を理解する。 - 筆者の考えと挙げている事例の関係を捉える。 (本時)		筆者の考えが「初め」と「終わり」に述べられ、「中」で事例を挙げて考えの根拠としている構成を確認する。
第三次	筆者の考えに対する自分の意見を書き、それを友だちと読み合う。		自分なりの言葉で表現させる。

3 本時のめあて

筆者の挙げている事例を読み取り、比較させることでそれぞれの事例の特徴を読み取ることができる。

4 展開例

「心の時間」の進み方に影響を与える事例

事例1…そのときの行動に対する感じ方

事例2…1日の時間帯

事例3…身の回りの環境

事例4…人によって感覚が異なる

○4つの事例のうち、1番自分にぴったりくる事例はどれですか。

- ・1番ぴったりくる事例はどれか考えることを通して、4つの事例を比較して読み深める。
- ・自分とは違う事例を選んだ友だちの意見を聞くことを通して、自分と異なる視点から具体例とともに事例を読み深める。

○4つの事例の役割はなんだろう。

- ・意見交換したことをふまえて、課題に対する意見を持つことができるようにする。

○まとめを書き、振り返る。

- ・4つの事例は「心の時間」の特性を具体的に説明し、2つの時間とともに生活していることや時間と付き合うことの必要性を実感させる役割であることを意識させる。

問題5二(一)

その① 全校児童が みんな仲良し みなさんは、他の学年 の人とは仲良しです か。全校児童が仲の良 いわたしたちの学校を 紹介します。	その② みんな読書が 大好き みなさんは、学校で どのくらい読書をし ますか。わたしたち の学校の読書の取り 組みを紹介します。
〇〇小 よい	
その③ あいさつが 飛びかう学校 A あいさつが飛びかう わたしたちの学校を 紹介します。	学校の ところ ページを開いてください。

【リーフレットの中①】

二 中山さんたちは、「目的に応じて推こする」ために編
集会議を行いました。

◇出題の趣旨

全体の構成を考え、一文を書き加える
ことができるかどうかをみる。

◇学習指導要領における領域・内容

B 書くこと

才 表現の効果などについて確
かめたり工夫したりすること。

◇正答率

精華町 59.6%

(京都府 61.3%)

※ 下のマス目は下書き用なので、使つて
も使わなくても構いません。答えは解答
用紙に書きなさい。

※ここから横書きで書くこと。

30字

② 三十字以内で一文で書くこと。

① 【上山さんの意見】と【山根さんの
意見】を取り入れて書くこと。

【条件】

A に入る文を、次の条件で書きなさい。

「その①」「その②」「そ
の③」の三つとも、同じ
構成で書くと分かりやす
くなると思います。

【上山さんの意見】



【山根さんの意見】



さらに、見出しに
ある「あいさつ」と
いう言葉を使うとよ
いですね。

上の【リーフレットの中①】を見て次の問いに答えなさい。
(一) 中山さんたちは次の【上山さんの意見】と【山根さん
の意見】を受けて、「その③」のAに一文を書き加え
ることにしました。

◇解答類型・誤答分析

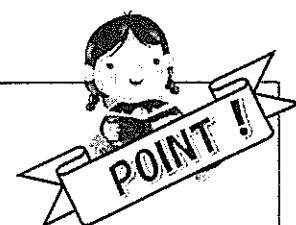
ア	正答 ①と②の条件を満たして書いている。 〈正答例〉 みなさんは、いつも笑顔であいさつをしていますか。	59.6%
イ	②の条件を満たし、さらに①の条件のうち、【上山さんの意見】のみ取り入れて書いている。	0.2%
ウ	②の条件を満たし、さらに①の条件のうち、【山根さんの意見】のみ取り入れて書いている。	8.9%
エ	イ、ウ以外の誤答	14.5%
無回答		16.8%

正答は「ア」である。無回答も16.8%と多く、書く事項を整理したり、構成を考えたりして記述することへの苦手意識を持つ児童が多い様子がわかる。

◇授業改善のポイント

リーフレットを作成するためには、

リーフレットの特徴に基づいて割り付けし、見出しを付けて記事を書くことが重要である。そのためには、リーフレットを書く目的や意図を明確にもつことができるように指導することが大切である。また、記述については、事実と感想・意見の区分、図表や写真の生かし方などについて気付けるように示す必要がある。図表や写真と、自分の考えとの関連づけは、リーフレット作成に欠かせないものであり、割り付けの学習の時には配慮すべきである。

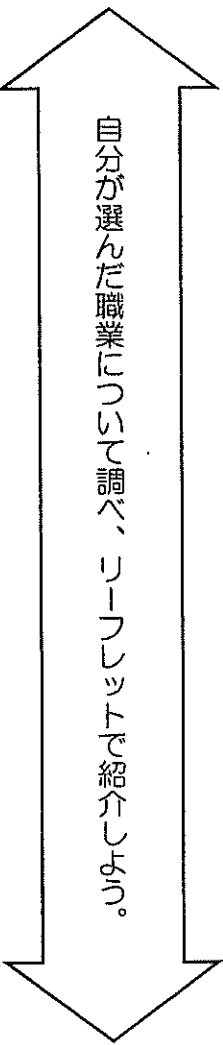


改善にむけた指導アイデア例

○学習例 「書くこと」に関する指導例

- 1 単元の目標 文章全体の効果を考えて構成するとともに、表現を工夫して書いている。

2 指導計画（8時間扱い）

	主な学習活動	単元に効果的に位置付けられた言語活動	指導上の留意点
第一 次	・職業に関わる新聞記事や本を紹介し、職業について関心をもつ。 ・自分が選んだ職業について調べたこととそこから考えたことをリーフレットにまとめ、紹介するための学習計画を立てる。	 自分が選んだ職業について調べ、リーフレットで紹介しよう。	・職業に関する新聞記事や本を紹介するなどして、課題意識を高めることができるようにする。 ・職業紹介やブックトークを行い、児童が学習に興味・関心を高め、学習に見通しをもって取り組むことができるようにする。
第二 次	・自分が選んだ職業について調べ、特に心に残ったことを中心に自分の考えをまとめる。 ・調べたこととそこから考えたことを必要に応じてペアやグループ、全体で交流する。		・調べたことと自分の知識や経験、考えなどを関係づけながら自分の考えをまとめることができるようにする。 ・調べたこととそこから考えたことにまとめ方などに着目して交流することで、自分の選んだ仕事の紹介に生かすことができるようにする。
第三 次	・必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を関連付けたりして、調べたこととそこから考えたことをリーフレットにまとめる。 ・リーフレットをもとに、学級で紹介し合い、互いに感想を伝え合う。		・調べる中で、新たな疑問をもったり、興味・関心をもったりしたことがあった場合は、他の本などを探す必要があることを確認する。 ・互いに紹介し合い、感想を伝え合うことで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

3 展開例

第二次3/8 職業について書かれた本を選んで比べて読み、必要な情報を付箋にまとめる。

- ・本や文章を読む際は、自分にとって必要な情報の中心となる語に着目させ、情報を検索できるように指導する。

第二次4/8 特に心に残ったことを中心に、付箋にまとめたことや本を読み返し、自分の考えをまとめる。

第二次5/8 資料の取捨選択の仕方やまとめ方などについて交流し、自分の選んだ仕事の紹介に生かす。

「正答率の低い」典型的な問題例

＜小学校第4学年 算数科＞

問題5「数と計算 数学的な考え方」（基礎基本）

- 5 けんじさんが、シュークリームを買いに行きました。きのうは1こ180円だったシュークリームが、きょうは1こ150円で売られていました。

このシュークリームを5こ買うと、きのうよりどれだけ安くなるかを考えます。

1こ分の値段のちがいをもとめてから、5こ分の値段のちがいをもとめる式はどれですか。

$$\left(\begin{array}{l} \text{ナ} \quad 180 - 150 \\ \text{ニ} \quad 180 - 150 \times 5 \\ \text{ヌ} \quad (180 - 150) \times 5 \\ \text{ネ} \quad 180 \times 5 - 150 \times 5 \end{array} \right)$$

◇出題の趣旨

乗法に関して成り立つ性質を理解し、計算の仕方を考えることができるかどうかを見る。

◇学習の時期と啓林館における教科書ページ

〇3年生（1月）…「計算のきまり」下P62～63

◇正答数

精華町 63.0%（京都府 69.3%）

◇正答（選択肢）

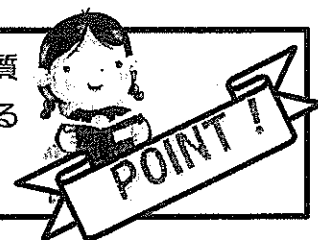
ヌ

◇解答・誤答について

ナ	誤答： 4.5%	1つ分の値段のちがいを求める式であることを理解していない。
ニ	誤答： 16.8%	乗法より減法を先にする場合は（ ）が必要なことを理解していない。
ヌ	正答： 63.0%	正答
ネ	誤答： 15.4%	1つ分の値段のちがいを求めてから、5つ分の値段のちがいを求める式ではないことを理解していない。
	無回答： 0.2%	

◇授業改善のポイント

計算の仕方を考えたり、説明したり、計算の確かめをしたりする際に、乗法の性質（交換・結合・分配法則など）を用いることのよさに気付いていけるように指導することが大切です。



【3年下P. 62、63 計算のきまり】

さきさんは、1本40円のえん筆を5本と、50円の消しゴムを5個買いました。

代金は、めわけて何円ですか。

えん筆と消しゴムを1組にして考えると
えん筆の代金と消しゴムの代金をべつべつに
もとめると...

ひなた
ひなた
だいち

① ひなたさんとだいちさんは、上のように考えました。
2人の考えを、それぞれ1つの式にかくことを考えて
みましょう。

ひなた $40 + 50 = 90$ $90 \times 5 = 450$	だいち $40 \times 5 = 200$ $50 \times 5 = 250$ $200 + 250 = 450$
↓	↓
$(40 + 50) \times 5 = 450$	$(40 \times 5) + (50 \times 5) = 450$

どちらの式も、答えは同じになります。
 $(40 + 50) \times 5 = (40 \times 5) + (50 \times 5)$

② ①で、えん筆5本の代金と消しゴム5個の代金の
ちがいは何円ですか。
1つの式にかいてもとめましょう

ひなた $50 - 40 = 10$ $10 \times 5 = 50$	だいち $50 \times 5 = 250$ $40 \times 5 = 200$ $250 - 200 = 50$
↓	↓
$(50 - 40) \times 5 = 50$	$(50 \times 5) - (40 \times 5) = 50$

どちらの式も、答えは同じになります。
 $(50 - 40) \times 5 = (50 \times 5) - (40 \times 5)$

③ 次の 〇にあてはまる数をかきましょう

〇 $(8 + 2) \times 7 = (8 \times 7) + (2 \times 7)$
 イ $(25 \times 8) + (75 \times 8) = (25 + 75) \times 8$
 エ $(13 - 3) \times 2 = (13 \times 2) - (3 \times 2)$
 オ $(100 \times 4) - (2 \times 4) = (100 - 2) \times 4$

④ 次の式を計算して、答えをくらべましょう

$(7 + 3) \times 9$ $(7 \times 9) + (3 \times 9)$	$(24 + 76) \times 3$ $(24 \times 3) + (76 \times 3)$
$(12 - 2) \times 6$ $(12 \times 6) - (2 \times 6)$	$(100 - 3) \times 2$ $(100 \times 2) - (3 \times 2)$

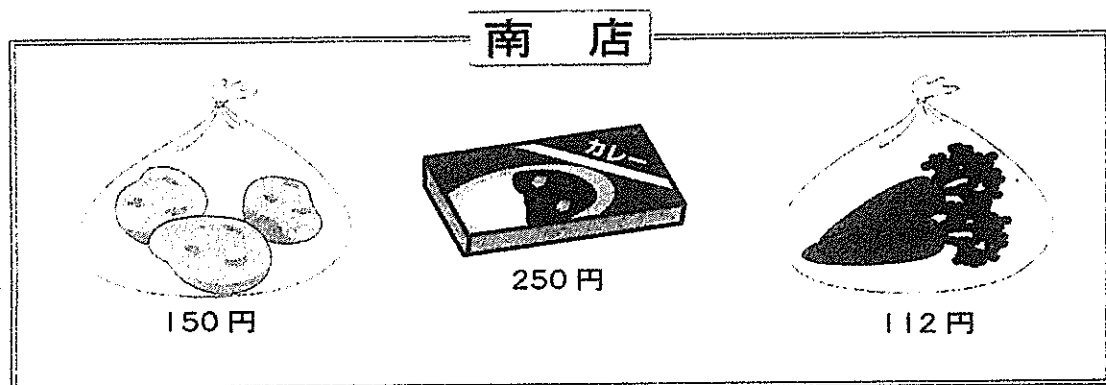
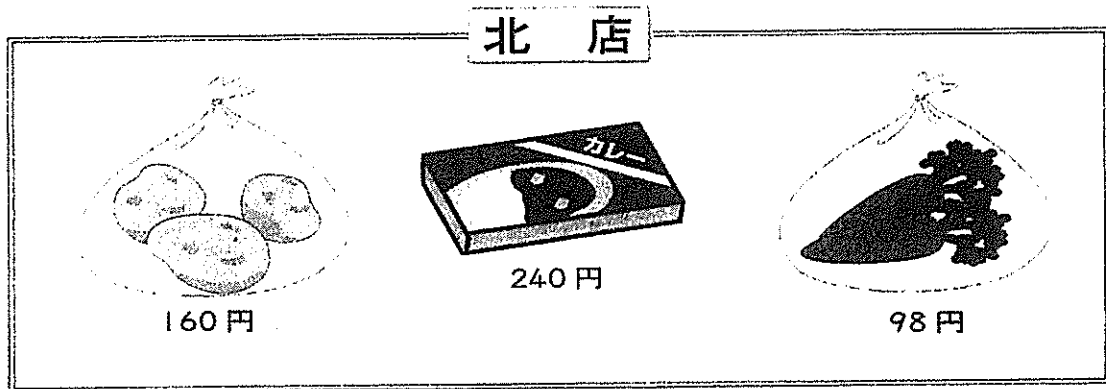
【授業改善の具体的方策】

- ① 具体的な場面に照らし合わせて考えながら、児童が分配法則のきまりについて気付いたりすること、さらには、式に表したりすることで、まとめて計算しても答えが同じになることについての理解を深める。
- ② まとめて計算する方法と、べつべつに計算する方法の両方を理解するために、「計算の仕方が違うのに、答えが同じになるのはなぜか」ということを話し合わせる。また、絵や図を基に、まとめ方が異なるだけで、えん筆の本数も消しゴムの個数も同じであることを確かめさせ、同じ代金であることを納得できるようにする。
- ③ 式に表す場合には、「40は何ですか。」「50は何ですか。」「40+50は何を表していますか。」などと問いかね、式と図を関連付けて考えることができるようにする。

問題10「数と計算 数学的な考え方」(活用)

- 10 まさこさんは、カレーライスをつくるために、カレーのルーとじゃがいもとにんじんを買いに行きます。北店か南店のどちらか一方のお店でそれらを全部買うことにします。北店と南店のそれぞれのねだんは下の図のとおりです。

まさこさんは、どちらのお店をえらぶと安く買えますか。安く買えるお店を解答用紙にかきなさい。また、そのお店のほうが安く買えるわけを、式とことばでのせつめいの両方で、解答用紙にかきなさい。



◇出題の趣旨

どちらの店が安く買えるかを判断し、その判断の理由を式と言葉の両方で記述できるかどうかを見る。

◇学習の時期と啓林館における教科書ページ

3年生(7月)・・・「学びをいかそう 買えますか?買えませんか? そのわけもいみましょう」上P82～83

◇正答数

精華町 33.3% (京都府 31.0%)

◇正答(選択肢)

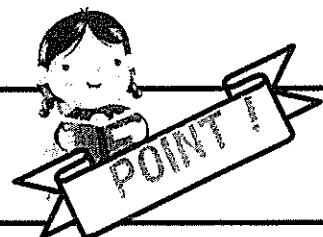
ア

◇解答・誤答について

ア	正答：33. 3%	正答「北店」という結論と、選んだわけを式と言葉の両方で説明している。
イ	誤答：10. 1%	結論及び言葉での説明は正しいが、計算を間違えている。
ウ	誤答：20. 0%	結論及び計算は正しいが、言葉での説明が十分ではない。
エ	誤答：33. 5%	イ・ウ以外の誤答
	無回答：3. 1%	

◇指導改善のポイント

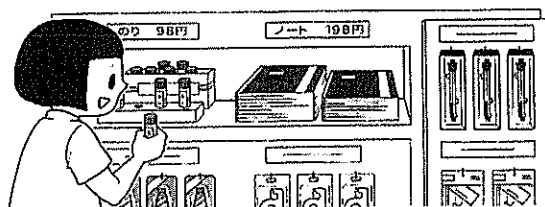
言葉、数、式などを用いたりして考え、計算の仕方を筋道立てて説明する活動や判断した理由を説明する活動などを取り入れることが大切です。



【3年上 P82. 83 学びをいかそう 買えますか？買えませんか？ そのわけもいしましょう】



買えますか？ 買えませんか？



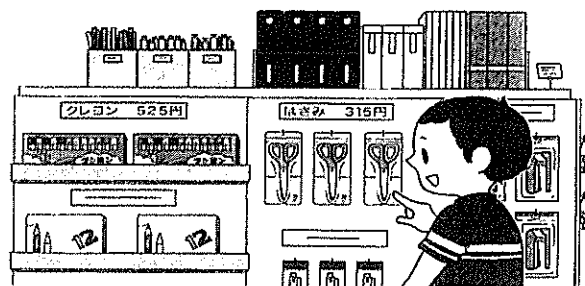
みこさんは、300円もっています。
98円ののりと198円のノートを買った場合、
買えますか？

98円ののりは、100円を越えます。

198円のノートは、200円です。

それぞれ、100円をのりより

のりよりノートは300円です。



ひろとさんは、800円もっています。
525円のクレヨンと315円のはさみを1つずつ買うことが
できますか？

525円のクレヨンは、500円です。

315円のはさみは、300円です。

それぞれ、500円と300円です。

クレヨンとはさみは800円です。

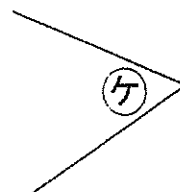
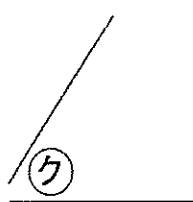
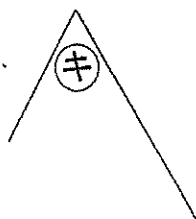
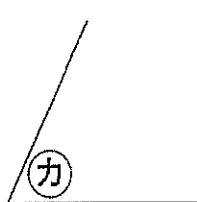
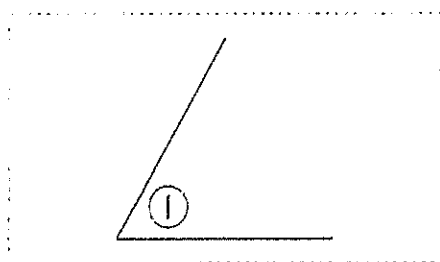


【授業改善の具体的方策】

- ① 3桁のたし算やひき算については学習しているので、3位数の加法と減法の計算が確実にできるように、それらを適切に用いることができるようにする。
- ② 説明すべき内容を整理して示すとわかりやすくなる。判断すべき事柄をいくつかに分けて、それぞれについて判断していくとよい。説明する活動を充実させることにより、言葉での記述ができるようにしていく。

問題20「図形 技能」(基礎基本)

- 20 ①の角があります。これと等しい大きさの角は(カ)～(ケ)のどれですか。用意した三角じょうぎを使って角の大きさをくらべて、あとのカ～ケからえらびなさい。



(カ (カ) キ (キ) ク (ク) ケ (ケ))

◇出題の趣旨

三角定規を用いて角の大きさを比べることができるかどうかをみる。

◇学習の時期と啓林館における教科書ページ

3年生(10月) 角

◇正答数

精華町 51.4% (京都府 53.1%)

◇正答(選択肢)

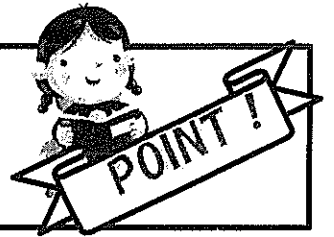
キ

◇解答・誤答について

カ	誤答: 35.7%	三角定規を正しく使って、角の大きさを比べていない。
キ	正答: 51.4%	正答
ク	誤答: 4.3%	角の条件を理解していない。
ケ	誤答: 6.6%	三角定規を正しく使って、角の大きさを比べていない。
	無回答: 1.9%	

◇授業改善のポイント

実際に紙を切り抜いて作った二等辺三角形や正三角形について、長さの等しい辺を重ねるように折ることによって、2つの角の大きさが同じであることを確かめたり、三角定規の角を重ねて角の大きさを比べたりすることが大切です。

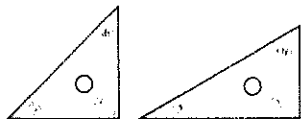
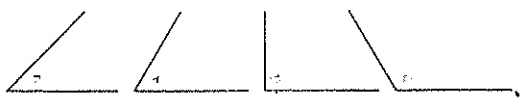


【3年下P. 8 角】

2 角

1

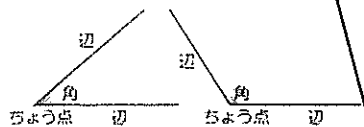
下の図から①のかどの形の中で、三角じょうぎのかどの形と同じ形はどれですか。



三角じょうぎのかどの形をあてて調べてみましょう。



1つのちょう点から出ている2つの辺がつくる形を角といいます。



三角形には、3つの角があります。角をつくっている辺の開きぐあいを、角の大きさといいます。

上の角は直角です。



【授業改善の具体的方策】

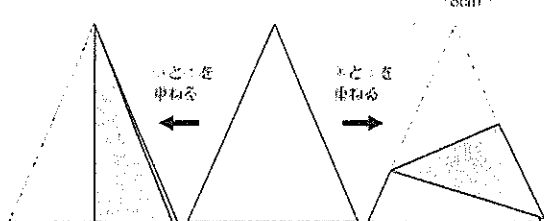
- ① まず、角の概念の理解を深めさせる。三角形の一部としてかどの形を取り上げ「角」という用語とその意味を理解させる。また、角の大小はそれをつくっている2つの辺の開き具合で決まることを理解させる。「角」は、2つの辺によってつくられる形なので、「頂点さえ含んでいれば、どんな小さな部分でも角になる」ことをおさえる。
- ② 角は2つの辺からつくられているため、見ただ目で辺の長い方が大きいと考える児童がいる。そのときは、両方の辺の長さを同じにして比較させ、角の大きさは辺の長さには関係しないということを確認めさせる。

5

右のような二等辺三角形をかいて、角の大きさをくらべましょう。

① 角の大きさをくらべよう。

② 三角形を切り取り、角を重ねるようにおいて、大きさをくらべましょう。



【授業改善の具体的方策】

- ③ 実際に紙を切り抜いて作った二等辺三角形や正三角形について、長さの等しい辺を重ねるように折ることによって、2つの角の大きさが同じであることを確かめたり、三角定規の角を重ねて角の大きさを比べたりすることが大切である。

「正答率の低い」典型的な問題例

<中学校第1学年 数学科(算数科)>

問題1 「数と計算」(基礎・基本)

1 次の数のうち、^{そすう}素数はどれですか。次のア～エから1つ選びなさい。

ア 1

イ 8

ウ 13

エ 25

◇出題の趣旨

素数の意味について理解している。

◇学習時期と啓林館における教科書ページ

5年生 9月中旬 教科書 P99、P103

◇学習指導要領の領域・内容 「数と計算」(基礎・基本)

◇正答率 精華町 53.1% (京都府 63.4%)

◇正答 ウ

◇ 解答について

素数とは、1とその数自身以外には約数を持たない整数のこと。ただし、1は素数に入れない。(1を素数に含めてしまうと、整数の素因数分解の一意性が成り立たなくなるため。)

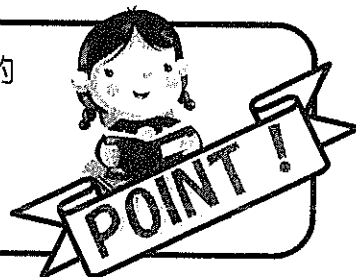
◇ 誤答分析

ア	31%	1を素数と考えている。
イ	11%	素数についての知識がぬけている。
ウ(正答)	53%	
エ	3%	素数についての知識がぬけている。
無回答	2%	

誤答の分析から、素数についての理解が弱いことが伺える。素数はそれ以上の分解ができない特別な整数であるというイメージをもっていない児童が1割ほどいることと、1が素数でないことを忘れてしまっている児童が3割近くいることが分かる。素数についても、倍数や約数と同じように、丁寧に指導する必要性があることがわかる。

◇ 授業改善のポイント

- ① 素数は定義を教えるだけでなく、それ以上小さくできない（約数がない）特別な整数であるという感覚をもたせること。
- ② 素数についての問題を繰り返し出し、習熟を図ること。
（1時間の授業で終わらせない）



○ 改善に向けての指導アイデア例 <啓林館「わくわく算数」5年 P99、P103>

【あて】素数について知ろう

6の約数 1, 2, 4, 8

9の約数 1, 3, 9

12の約数 1, 2, 3, 4, 6, 12

7の約数 1, 7

5の約数 1, 5

約数が
両いかな...
↓
素数

エラトステネスのふるい

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

素数

✕ 2, 3, 5, 7, 11, 13

はい、いいえ...

【まとめ】

約数が1と自分自身しかない
整数を素数という。
(2, 3, 5, 7, 11...)

P103の「エラトステネス
のふるい」も扱い、素数につ
いての理解を深める。

- ・素数を扱う時間が約数とセットで1時間と短い！（1時間は素数でつかいたい）
- ・素数を指導した後に、習熟の時間を設ける。
＜例＞30までの素数を順に言ってみよう

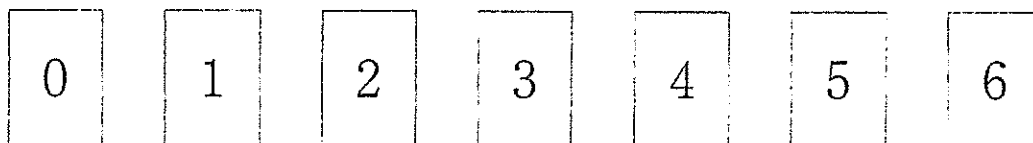
問題8 「数と計算」(活用)

8 下の図のような7枚の【数字カード】があります。この7枚から、6枚を選んで下の□に当てはめて、【小数のわり算の式】をつくります。

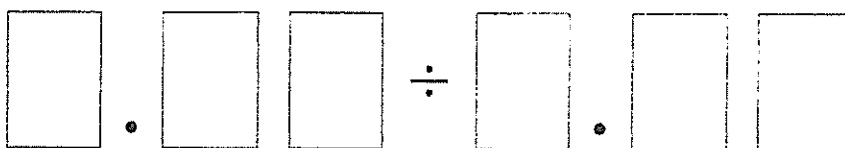
商が最も大きくなるときの【小数のわり算の式】とその【商】を解答用紙に書きなさい。

ただし、同じ数字カードを2度使うことはできません。

【数字カード】



【小数のわり算の式】



【商】

--

◇出題の趣旨

わる数の大きさによって、商がわる数よりも大きくなることを理解している。

◇学習時期と啓林館における教科書ページ

5年生 6月中旬 教科書 P58

◇学習指導要領の領域・内容 「数と計算」(活用)

◇正答率 精華町 41.6% (京都府 44.4%)

◇正答 6.54 ÷ 0.12 = 54.5

◇ 解答について

わり算はわる数(被除数)より商が小さくなるイメージをもっているが、わる数(除数)が1より小さいときは、商が被除数より大きくなる。さらに、除数が0に近いほど商は大きくなる。この決まりに当てはめて考えれば、被除数をできるだけ大きく(今回は6.54)除数をできるだけ小さく(今回は0.12)すれば、最も大きな商になる計算式にたどりつける。

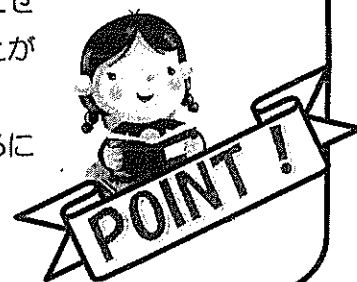
◇ 誤答分析

- 計算ミス（7%）
- 立式でのミス（27%）
- 無回答（24%）

誤答の分析から、割り算では、商の大きさがわる数の大きさによって変わるということの理解が弱いことがわかる。また、無回答が非常に多く、小数の割り算への苦手意識の高さも感じられる。

◇ 授業改善のポイント

- ① わり算だが、わる数が1より小さいと商が大きくなるという感覚をもたせること。（わり算は1あたり量を求めるので、1未満の数で割ると、答えが大きくなる）
- ② わり算の商の大小についての学習するとき、「商をできるだけ大きくするにはどうすればよいのか」ということにも触れること。
- ③ 繰り返し習熟を図ること。



○ 改善に向けての指導アイデア例 <啓林館「わくわく算数」5年 P58>

□ 5種類のリボンを300円分買った。次のように買った。

色	青	黄	緑	茶	
長さ	0.6m	0.8m	1m	1.2m	2m

1mの長さを300円分買った。1mの長さを何個買ったか？

1mの長さを $\div$ 長さ = 1mの長さ

茶 $300 \div 2 = 150$

緑 $300 \div 1.2 = 250$

黄 $300 \div 1 = 300$

青 $300 \div 0.8 = 375$

赤 $300 \div 0.6 = 500$

白 $300 \div 0.1 = 3000$

□ 1mの長さの1mの長さを1mの長さで割ると1になる。

わる数 < 1 (1mより小さい) は 商がわる数より大きくなる

($300 \div 0.8 = 375$)

($300 \div 0.6 = 500$)

わる数 > 1 (1mより大きい) は 商がわる数より小さくなる

($300 \div 2 = 150$)

($300 \div 1.2 = 250$)

まとめ

わる数 > 1の時 商 < わる数

わる数 = 1の時 商 = わる数

わる数 < 1の時 商 > わる数

+ わる数が小さいほど (0に近いほど) 商はどんどん大きくなる

② ③ 商 > 15 $15 \div 0.6, 15 \div 0.5$

④ 商 = 15 $15 \div 1$

⑤ 商 < 15 $15 \div 1.5, 15 \div 10$

$\div 0.1$ や $\div 0.01$ $\div 0.001$ はどうなるかについて考えさせてみる。

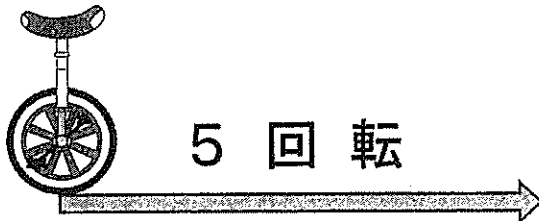
・まとめのときに、「商がわる数より大きくなること」だけをとりあげるのではなく、「商がどんどん大きくなること」にもふれる

問題18 「図形」(活用)

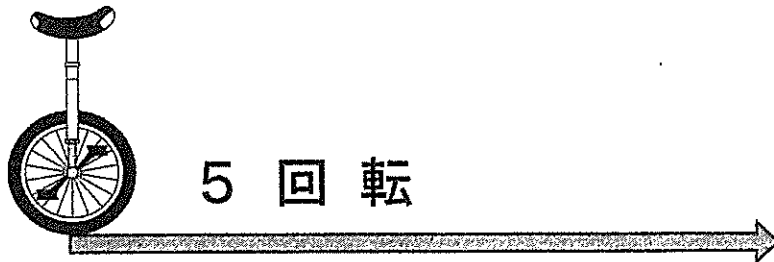
- 18 車輪の直径が50 cmと70 cmの一輪車があります。これらの一輪車が同じ位置からスタートし、車輪がそれぞれ5回転したとき、2台の一輪車が進んだきよりの差は何cmですか。あとのア～エから1つ選びなさい。

ただし、円周率は3.14とします。

車輪の直径50 cm



車輪の直径70 cm



ア 31.4 cm イ 62.8 cm ウ 100 cm エ 314 cm

◇出題の趣旨

円周の公式を使い、5回転分の円周を正しく求めることができる。

◇学習時期と啓林館における教科書ページ

5年生 2月中旬 教科書 P196

◇学習指導要領の領域・内容 「図形」(活用)

◇正答率 精華町 35.7% (京都府 34.6%)

◇正答 工

◇ 解答について

円周を求める公式は「直径×3.14」。この公式に当てはめてそれぞれの5回転分の円周を出す。そして、それぞれの差を求めることで答えが出せる。

$$\text{式} \quad 70 \times 3.14 \times 5 - 50 \times 3.14 \times 5 = 314$$

<別解> 先に直径の差を求め、円周率と5回転分をかけることで、答えが出せる。

$$\text{式} \quad (70 - 50) \times 3.14 \times 5 = 314$$

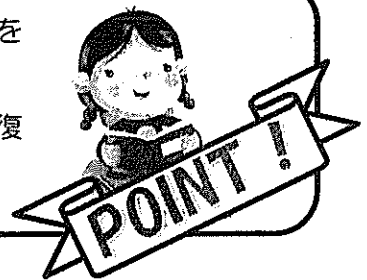
◇ 誤答分析

ア	10%	半径×3.14 で円周をもとめたつもりになり、さらに、5倍することを忘れて いる。
イ	37%	直径×3.14 で円周をもとめたが、5倍することを忘れている。
ウ	13%	直径の差（70－50＝20）を5倍している。
エ（正答）	36%	
無回答	4%	問題の求め方が分からない

誤答の分析から、円周を求める公式を正しく覚えていない。円の面積を求める公式と
混乱している。また、円周を5倍するという問題にとまどっていることがわかる。

◇ 授業改善のポイント

- ① 2回転分や3回転分の円周を求め、円周を倍化することもできることを
指導すること。
- ② 円周の公式の定着を図ること。特に円の面積の指導（6年）の後に、復
習することが大切



○ 改善に向けての指導アイデア例 <啓林館「わくわく算数」5年 P196>

円周や直径も求めよう

⑤ 円の形をした池の周の長さは
はかり 47m ありました。
この池の直径は何mですか。
上の2倍さが、数え取れます。

⑥ 円周が 20cm の円の直径は？
直径の長ささが、数え取れます。

式 $20 \div 3.14 = 6.38...$

⑦ 直径が 20cm の円の周の長さは？
直径の長ささが、数え取れます。

式 $20 \times 3.14 = 62.8$

⑧ 直径が 20cm の円の面積は？
直径の長ささが、数え取れます。

式 $3.14 \times 10^2 = 314$

⑨ 直径が 20cm の円の周の長さの2倍は？
直径の長ささが、数え取れます。

式 $20 \times 3.14 \times 2 = 125.6$

⑩ 直径が 20cm の円の周の長さの3倍は？
直径の長ささが、数え取れます。

式 $20 \times 3.14 \times 3 = 188.4$

・円周の公式の指導の後に、繰り返し復習をし
て、公式の定着を図る。

・2周分の円周や3周分の円周はどうなるかとい
った問題を取り上げ、深い学びへとつなげてい

8 診断テストの成果と今後の方向性

(1) 成果

- ① 度数分布表で得点49点未満の児童を見ると精華町は京都府・山城局と比較して、基礎学力の未定着児童（成績下位群）の割合が少ない。
全体的に、基礎学力の充実・向上・定着が図られてきている。（「習得型」学力の定着）
- ② 思考力・判断力・表現力という「活用型」の学力が、京都府・山城局の平均値と比較しても相対的に高いのが特徴である。
問題解決的な学習や体験的な活動などと言語活動を連動させた「授業改善」の取組の充実が図られてきているからであろう。但し、正答率から見ればまだまだ十分だとは言えず、「授業の質」の充実が求められる。
- ③ 経年比較をして、平成27年度に4年生の児童が平成30年度は中学校1年生となり、府学力診断テストの結果は良好な結果であった。4年、5年、6年と3年間で、課題を整理し、分析をして授業改善をし、授業にいかすよう実践した成果であると考えられる。

(2) 今後の方向性

- ① 基礎・基本の定着
小中連携の視点での結果の活用を効果的に行い、小中9年間を通した学びの連続性を重視する。また、組織的な授業改善や一人一人を大切にしたい指導の充実を図る。
- ② 主体的・対話的で深い学びの充実
言語活動を充実させ、自信をもって意見を述べることのできる児童生徒の育成を目指すとともに、主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業改善をさらに進めることを通して、活用の問題にも対応できる力の育成を目指す。また、振り返る学習過程を大切に、学びを深める指導方法を改善する。
- ③ 「実質的な習熟度別」授業を展開する（国語科・算数科などで）。
個々の児童の定着度の確認と各コースのねらい・役割を明確にして、児童の希望と担当者の指導性を大切にしながら、補充的な学習内容や発展的な学習内容も取り入れた少人数授業を進める。
- ④ 学習習慣の定着
予習・復習を中心とした主体的な学習習慣が身に付くように、家庭と連携した取組を充実、推進させる。
- ⑤ 学びに向かう力の育成
児童生徒一人一人の成長や進歩を丁寧に評価したり認めたりし、学びに向かう力を高める。
- ⑥ 「ユニバーサルデザイン」の視点での授業を展開する。（どの子にもわかりやすい授業）
- ⑦ 周囲からの温かい愛情や信頼、期待を感じさせることにより、「包み込まれているという感覚」をはぐくみ、自己有用感を高めるようにする。
- ⑧ 携帯電話やスマートフォンの正しい使い方
携帯電話やスマートフォンに潜む危険性や正しい使い方等について、児童生徒への理解を深めるとともに保護者への啓発を図る。

児童・生徒質問紙調査から見えてくるもの

～授業改善の視点から～

本委員会では、毎年、京都府学力診断テスト結果から、精華町の児童の課題を明確にし、国語・算数の両教科の結果より、課題が浮き彫りとなった問題をピックアップし、授業改善の方法を述べてきた。加えて、児童・生徒質問紙調査より、精華町の児童・生徒の授業のイメージ、国語・算数への関心や意欲、家庭学習の様子、家庭での生活の様子及び将来や社会への関心や意欲等を分析し、授業改善や生活改善、よりよい家庭との連携の在り方など、総合的に学力を向上させる方法について提案してきた。

今年度は、「授業改善」にテーマを絞り、48 項目の質問より、小学校 4 年生児童質問紙から 9 問、中学校 1 年生生徒質問紙から 10 問の質問をピックアップし、今後の授業をよりよく改善する効果的な取組について提案する。

授業に関する質問 <小 4 質問 (1) ～ (4)、 中 1 質問 (1) ～ (5)>		
① 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた		
② 授業では、みんなで話し合う活動をよく行っていた		
③ 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その課題に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	中 1 のみ	
④ 授業の中で目標 (めあて・ねらい) が示されていた		
⑤ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた		
国語の授業に関する質問 <小 4 質問 (7)、(8)、(9)、 中 1 質問 (8)、(9)、(10)>		
⑥ 国語の授業で、司会や記録などの役割を決めて話し合っている (いた)	中 1 の質問	
⑦ 国語の授業で、調べたことを取材メモに書いたり、組み立てメモを作ったりしてから文章を書いている (いた)	の語尾は「いた」	
⑧ 国語の授業で、本や文章を読んで内容をまとめたり、考えたことを伝えあったりしている (いた)		
算数の授業に関する質問 <小 4 質問 (12)、(13)、 中 1 質問 (13) ～ (14)>		
⑨ 算数の授業で、問題をとくとき、前に学習したことを使っている (いた)	中 1 の質問	
⑩ 算数の授業で、自分で問題をとくとき、絵や図、ことばの式を使って考えている (いた)	の語尾は「いた」	

今回は、各質問の選択肢 1 ～ 4 を選択した児童・生徒別のグループに分け、各グループの国語・算数の正答率及び顕著な特徴がみられた問題の分析をもとに、授業改善の方法を探る。

以下、選択肢 1 を選んだグループを Aグループ

選択肢 2 を選んだグループを Bグループ

選択肢 3・4 を選んだグループを Cグループ

とする。

1 授業に関する質問の回答と国語・算数のテストの結果

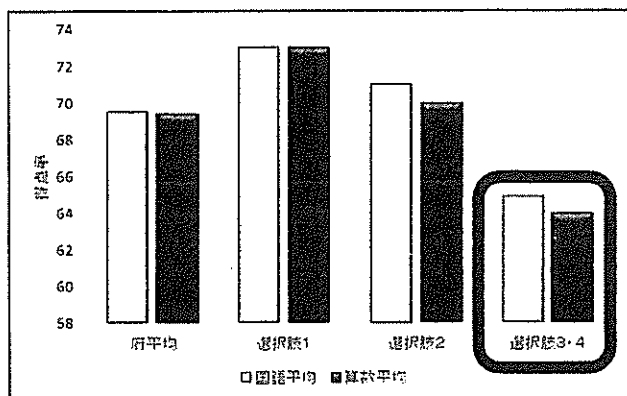
	小4 国語平均	小4 算数平均	中1 国語平均	中1 算数平均
精華町	71.0 点	70.7 点	73.8 点	64.2 点
京都府	69.5 点	69.4 点	70.3 点	62.1 点

① 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた

選択肢1 当てはまる 選択肢2 どちらかといえば、当てはまる
 選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない 選択肢4 当てはまらない

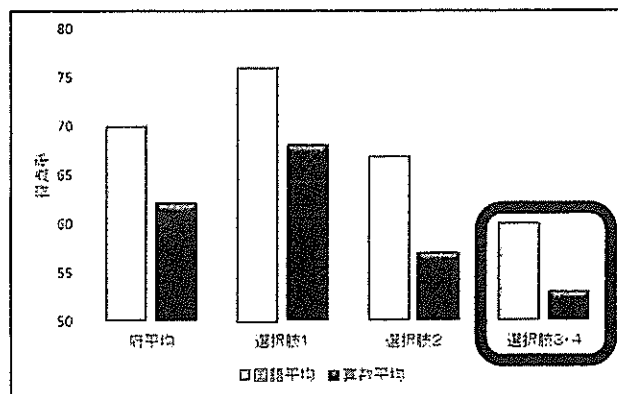
<小学校4年生の結果>

質問1	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	4496人	45%	180人	47%	73点	73点
選択肢2	3701人	37%	138人	36%	71点	70点
選択肢3・4	1774人	18%	66人	17%	65点	64点



<中学校1年生の結果>

質問1	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	6620人	68%	247人	47%	76点	68点
選択肢2	2389人	25%	85人	36%	67点	57点
選択肢3・4	647人	7%	25人	17%	60点	53点



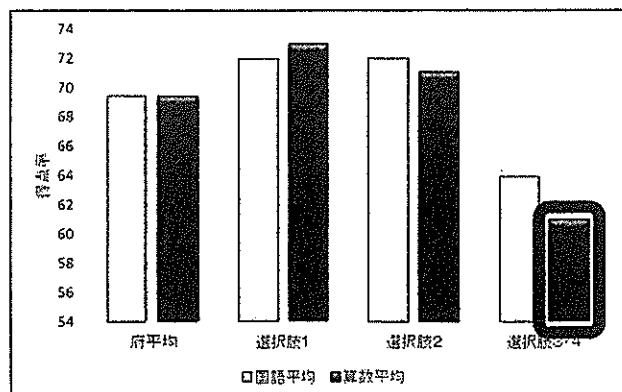
Cグループの児童・生徒の平均点が、国語・算数ともかなり低くなっていることがわかる。特に中学校1年生の算数における平均点の低さが顕著に目立ち、発表する機会の必要性がうかがえる。

② 授業では、みんなで話し合う活動をよく行っていた

選択肢1 当てはまる 選択肢2 どちらかといえば、当てはまる
 選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない 選択肢4 当てはまらない

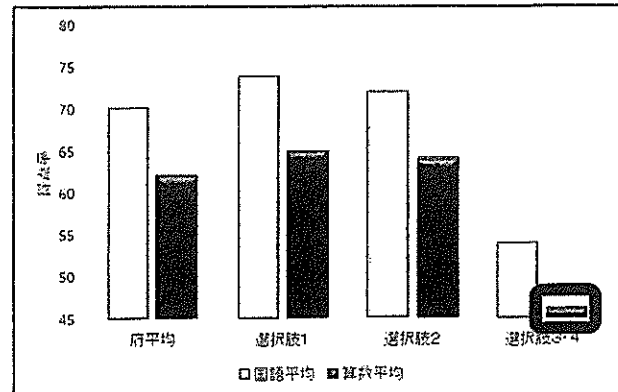
<小学校4年生の結果>

質問2	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	4360人	44%	182人	48%	72点	73点
選択肢2	4202人	42%	158人	41%	72点	71点
選択肢3・4	1396人	14%	43人	11%	64点	61点



<中学校1年生の結果>

質問2	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	6153人	69%	212人	59%	74点	65点
選択肢2	3079人	32%	129人	36%	72点	64点
選択肢3・4	419人	5%	16人	5%	54点	46点



話し合い活動という国語科への影響が強いイメージが、表・グラフから、算数科に大きく影響があることがわかる。A・Bグループと比べ、Cグループの算数の平均得点の低さが顕著となった。

③ 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その課題に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた

選択肢1 当てはまる

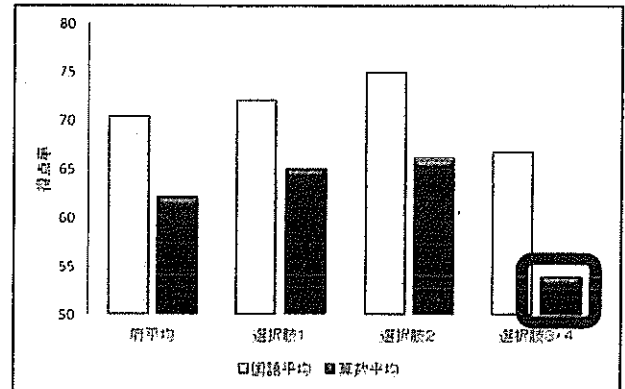
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる

選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない

選択肢4 当てはまらない

＜中学校 1 年生の結果＞

質問3	京都府		精華町		国語平均	算数平均
	人数	割合	人数	割合		
選択肢1	4002人	41%	168人	47%	72点	65点
選択肢2	4227人	44%	150人	42%	75点	66点
選択肢3・4	1409人	14%	39人	11%	67点	54点



この質問は中学校 1 年生のみの質問である。自ら課題を設定し、課題解決に向けて自ら調べ、情報を集め、話し合い活動を通して整理し発表した経験が学力に大きく影響があることがうかがえる。先ほどの質問①、②とも共通点があるが、自らの考えを発表する機会が与えられること、話し合い活動を行うことが、学力の定着に大きく関わることがわかる。

④ 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた

選択肢1 当てはまる

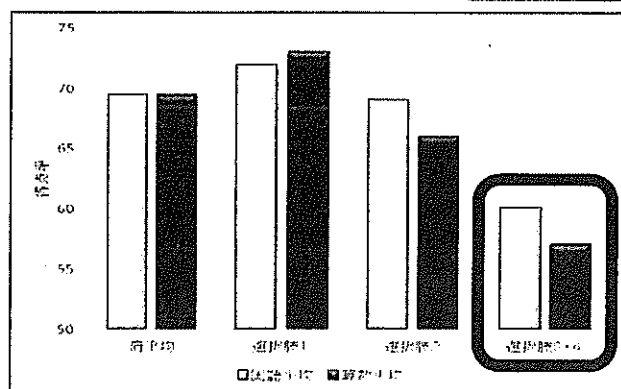
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる

選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない

選択肢4 当てはまらない

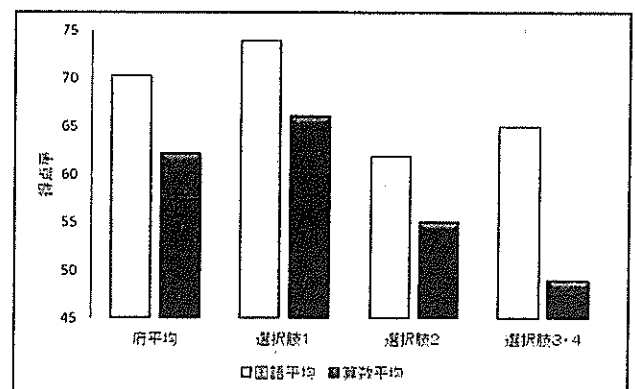
＜小学校 4 年生の結果＞

質問3	京都府		精華町		国語平均	算数平均
	人数	割合	人数	割合		
選択肢1	6094人	61%	289人	75%	72点	73点
選択肢2	2587人	26%	61人	16%	69点	66点
選択肢3・4	1254人	12%	33人	9%	60点	57点



＜中学校 1 年生の結果＞

質問4	京都府		精華町		国語平均	算数平均
	人数	割合	人数	割合		
選択肢1	7746人	80%	308人	86%	74点	66点
選択肢2	1459人	15%	35人	10%	62点	55点
選択肢3・4	414人	4%	14人	4%	65点	49点



小学校 4 年生の結果から国語・算数ともにCグループの平均の低さが顕著になった。また、国語・算数とも、Aグループのみ京都府平均を上回っており、めあてをつかませることが学力に与える影響の大きさを示す結果となった。割合でみると、Aグループの割合が多く、精華町ではめあてを意識した授業が行われていると考えられるが、児童・生徒に掲示されためあてを「つかませる」ことの重要性が感じられる。

⑤ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた

選択肢1 当てはまる

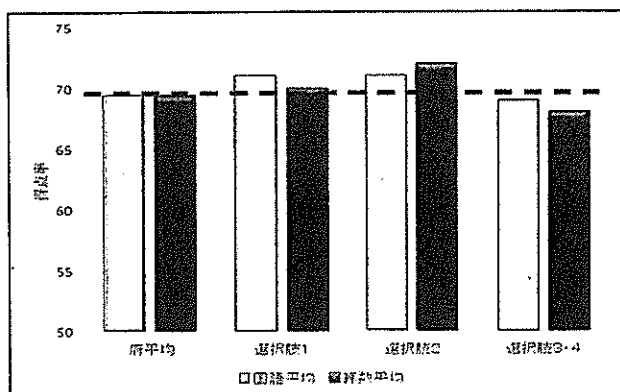
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる

選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない

選択肢4 当てはまらない

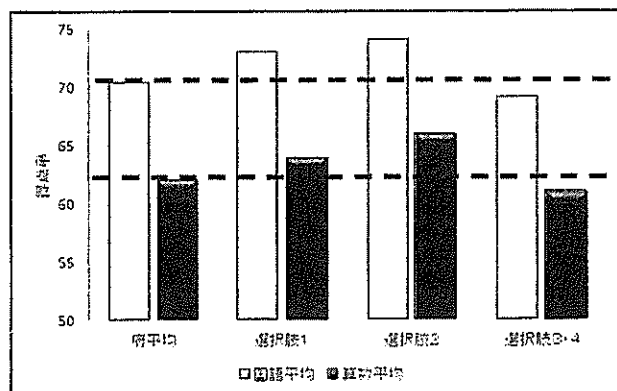
＜小学校4年生の結果＞

質問4	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	4391人	44%	198人	52%	71点	70点
選択肢2	3456人	35%	130人	34%	71点	72点
選択肢3・4	2055人	21%	55人	14%	69点	68点



＜中学校1年生の結果＞

質問5	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	4068人	42%	160人	45%	73点	64点
選択肢2	3781人	39%	149人	42%	74点	66点
選択肢3・4	1768人	19%	48人	13%	69点	61点



小学校4年生、中学校1年生とも、Cグループは府平均と比べ国語・算数とも低く、学習内容を振り返る活動をよく行っていた児童・生徒と、そうでない児童・生徒の差がはっきりとみられた。教科間では若干ではあるが、算数のほうがA・BグループとCグループの得点差が見られ、授業のまとめとして、学びを振り返らせることの大切さがうかがえる。

～結果の考察～

質問①～⑤とも、Cグループの国語・算数の平均点の低さが顕著になった。「発表する機会を与える」、「話し合い活動を行う」、「問題解決的な活動をする」、「めあてをつかませる」、「学びを振り返らせる」・・・質問紙の結果から、京都府に比べ、精華町ではこれらの視点を重視し、授業に取り入れられていることがわかり、精華町が京都府の平均点を上回った一因であると考えられる。ただ、Cグループの児童・生徒に対して、学びを支えるための支援が必要であり、対策は急務である。例えば、めあてを示しても、意識していない児童・生徒にとっては、めあてをつかませていないことになる。めあてに深く迫る授業を行うためには、めあてをつかませることは不可欠であり、意識化できる工夫が重要となる。

以下は、「やましろ授業スタンダード」を基に、次の3つの授業改善の視点を考える。

やましろ授業スタンダード

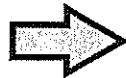
- 1 出合いをしかける！
- 2 めあてをつかませる！
- 3 一人で挑戦させる！
- 4 仲間と追究させる！
- 5 交流でさらに深めさせる！
- 6 自分の言葉でまとめさせる！
- 7 学びを振り返らせる！

1. <めあてをつかませる>

- ・めあては掲示するだけでなく、「つかませる」ことが重要。
- ・「出会い」で子どもが見つけた「問い」を解決したくなるような「めあて」を実態に合った言葉で表す。
- ・具体的なめあて（「何をするのか」、「何ができるようになるのか」等、子どもたちがゴールを見通せるめあて）を設定する。
- ・「まとめ」や「振り返り」の際に、明確に評価できる「めあて」にする。

2. <仲間と追究させる（話し合い活動）>

- ・自分なりの考えを表現させる。
- ・仲間の考えを聴く



「めあて」に対する自分の考えを広げたり、深めたりできる。

<話し合い活動の工夫>

- ・意図的なペア・グループの編成
- ・話し合いのルールを設定（話型・傾聴、違いを聴く等）
- ・目的や視点を明確にした指示（話し合い、実験、観察、実技等）
→ 「めあて」向かって焦点化できるように具体的でわかりやすい指示をする
- ・教具の活用
- ・共通点や相違点を明確にした話し合い
- ・焦点化の視点：よりわかりやすい、より簡単、だれにでもできる、よりよい等
- ・思考ツール（ピラミッドチャート、データチャート、座標軸＜四象限＞等）の活用

3. <学びを振り返らせる>

- ・授業のゴール（まとめ・振り返り）を見通して授業を構成していくことが大切。
- ・振り返り・・・「めあて」にそって、自分自身がどのように学習し、まとめにたどり着いたか考えさせる活動。
- ・振り返りを子ども同士で共有させる。 → 授業改善に活用する。

自分の言葉で まとめさせる

- ・共通するキーワードや方法の確認
まとめに使える、授業の中心となる言葉（キーワード）は？
- ・選択した方法での表現（文章、図 等）
文章にこだわらず、表現方法に選択肢を与える。リード文を用意するなど、支援の方法も考える。
- ・適用題での確認（教科によって）
「わかる」から「できる」へ。

学びを振り返らせる ポイント

- ・思考の変化に着目
「めあて」に対する答えでなく、自分の気づきや考えの変化に着目させる。
- ・振り返りカードの活用
振り返りの視点を明確にしたり、見通しをもたせたりすることができる。

2 国語の授業に関する質問の回答と国語・算数のテストの結果

質問⑥～⑧は、国語の授業に関する質問である。この質問においても、Aグループ、Bグループの国語・算数の平均正答率は、Cグループの児童・生徒の平均正答率より高く、また、国語の授業に関する質問であるが、算数のテストの結果にも大きな差が生じていることがわかる。

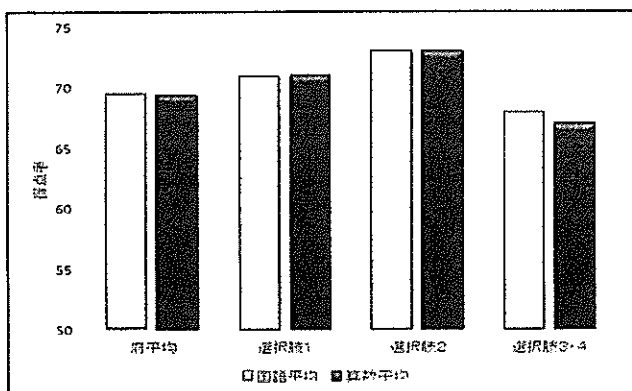
以下は、⑥～⑧の質問への回答と特に相関係数が高い国語の問題をピックアップし、分析する。

⑥ 国語の授業で、司会や記録などの役割を決めて話し合っている（いた）

選択肢1 当てはまる
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる
選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない
選択肢4 当てはまらない

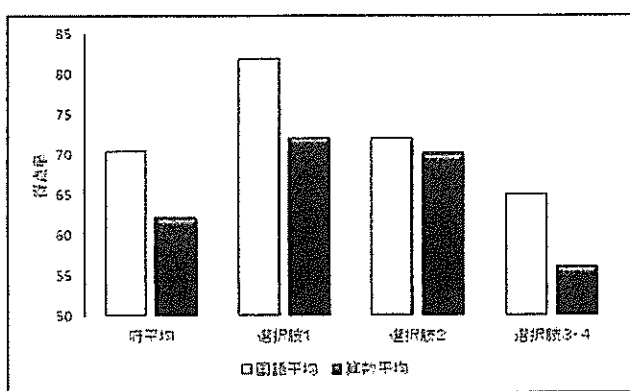
<小学校4年生の結果>

質問7	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	2960人	30%	145人	38%	71点	71点
選択肢2	3659人	37%	128人	33%	73点	73点
選択肢3・4	3308人	33%	111人	29%	68点	67点



<中学校1年生の結果>

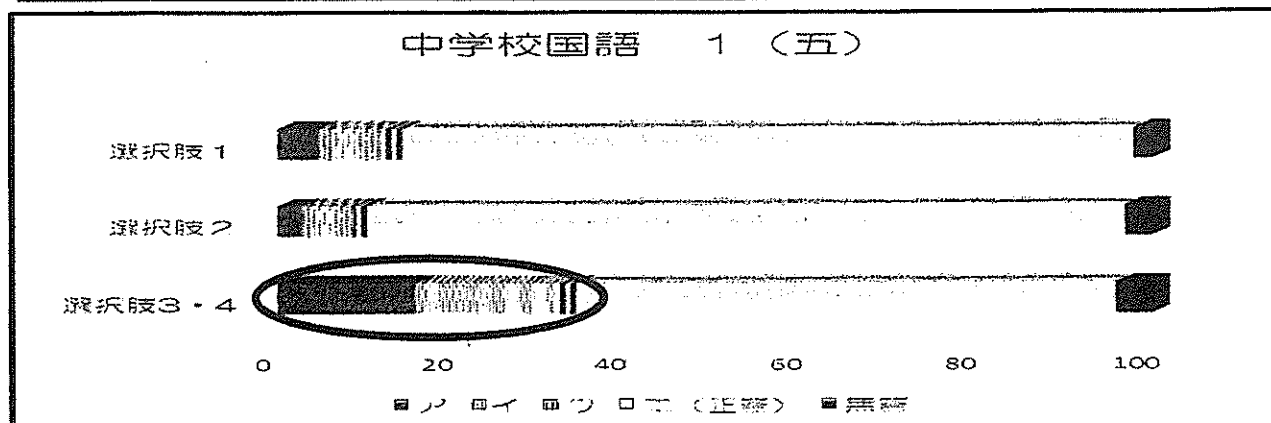
質問8	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	3738人	39%	189人	45%	82点	72点
選択肢2	3652人	38%	124人	42%	72点	70点
選択肢3・4	2227人	23%	44人	13%	65点	56点



結果から、それぞれの選択肢を選んだ児童・生徒のグループで大きな差が見られた。算数の平均点では特にその差が顕著であり、特に中学校1年生の結果においては両教科において、A、Cグループ間で15点以上の開きが見られ、司会や記録などの役割を決めて話し合う活動の重要性がうかがえる。

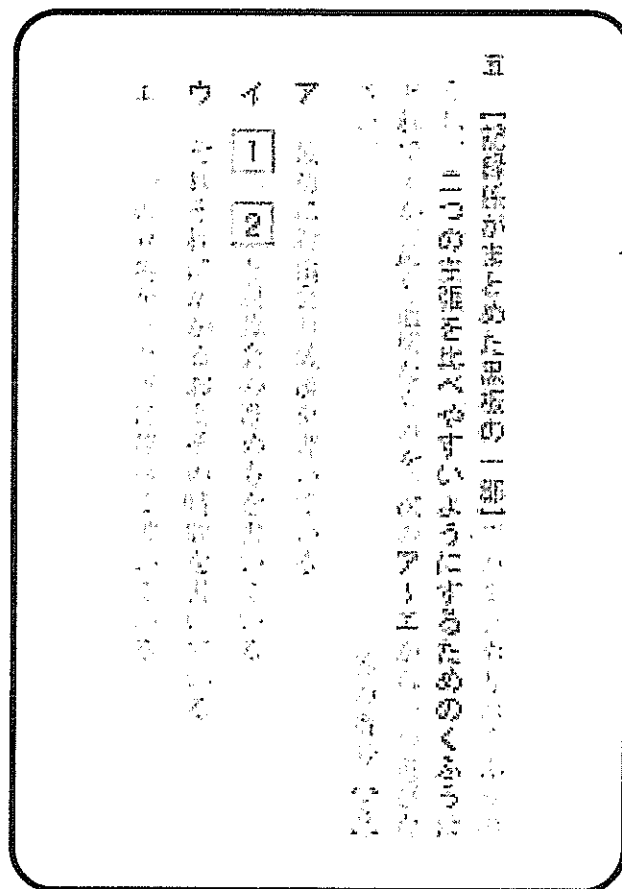
<中学校国語 問題 1 の五>

	選択肢1	選択肢2	選択肢3・4
ア	5%	3%	16%
イ	7%	6%	16%
ウ	3%	2%	3%
エ（正答）	83%	86%	61%
無答	2%	3%	4%



国語の問題において、特に影響があると思われる問題の1つは中学校1年生の問題①の五であり、観点に基づいて情報を関係づけ整理することができるかどうかを見る問題である。問題①の五では、Cグループの生徒の正答率が低く、また誤答ア・イを選択している生徒が多い。話し合いを円滑にするためのまとめ方の工夫と、見通しをもたせるための工夫の区別がついていないのである。

話し合い活動を進める中で、司会や記録などのそれぞれの役割がどのような働きをもってしているのか、また、円滑に進めるためにどのような工夫がなされているのか確認しながら話し合い活動を進めることが大切である。



⑦ 国語の授業で、調べたことを取材メモに書いたり、組み立てメモを作ったりしてから文章を書いている（いた）

選択肢1 当てはまる

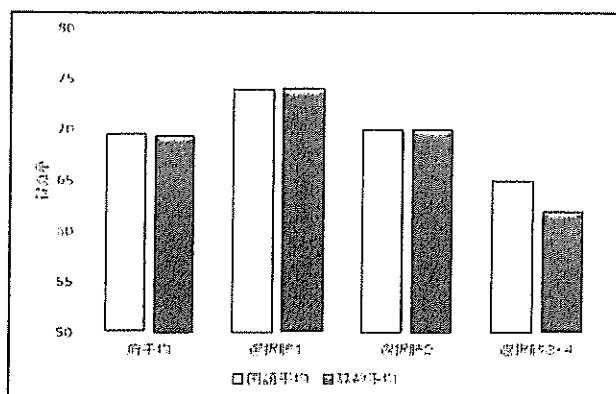
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる

選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない

選択肢4 当てはまらない

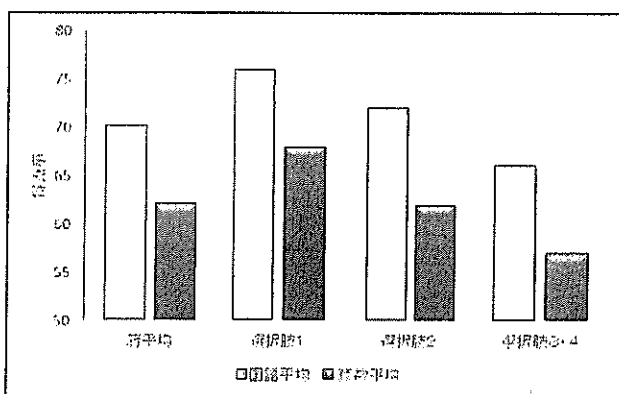
<小学校4年生の結果>

質問8	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	3660人	37%	193人	50%	74点	74点
選択肢2	3250人	33%	109人	28%	70点	70点
選択肢3・4	3118人	31%	83人	22%	65点	62点



<中学校1年生の結果>

質問9	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	3798人	39%	169人	47%	76点	68点
選択肢2	3687人	38%	138人	39%	72点	62点
選択肢3・4	2138人	17%	50人	14%	66点	57点



先ほどの⑥同様、小4、中1共にA、B、Cグループでは、算数の平均点にも顕著な差がみられた。もちろん、国語においてもA、B、Cのグループ間でも平均点に差がみられた。

国語の授業において、取材メモや組み立てメモの役割を教える側が十分に認識し、それぞれのメモの書き方やその意味を適切に指導することは重要であるといえる。

< 小学校国語 問題 三の(四) >

四
この文は「手紙」のうしろに書かれた文で、
お礼の気持ちを表しています。正しいものを
選んでください。



【山口さんの考え】

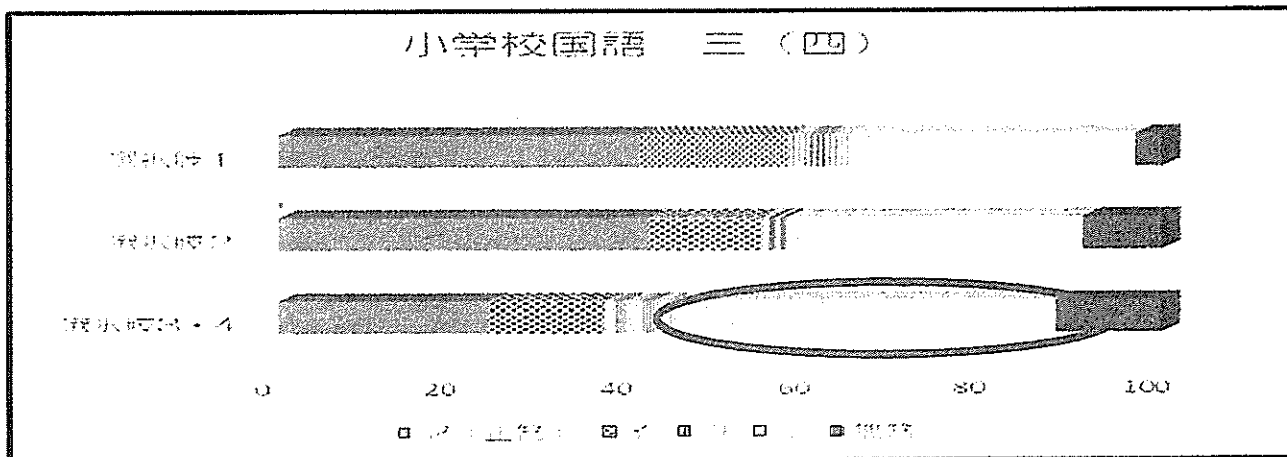
お礼の手紙を書くときは、相手の名前を
あて、学習の友だちにもう一人書いてお
くことにしよう。

お礼の手紙を書くときは、相手の名前を
あて、学習の友だちにもう一人書いてお
くことにしよう。

お礼の手紙を書くときは、相手の名前を
あて、学習の友だちにもう一人書いてお
くことにしよう。

お礼の手紙を書くときは、相手の名前を
あて、学習の友だちにもう一人書いてお
くことにしよう。

	選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3・4
ア (正答)	41%	42%	24%
イ	17%	13%	13%
ウ	7%	3%	3%
エ	32%	33%	43%
無答	3%	9%	12%



質問⑦が、特に影響があると思われる問題の1つは先ほども「正答率の低い問題例」でも取り上げた小学校4年生の問題③の四である。手紙を書くときは、相手や意図を明確にし、自分の伝えたいことが相手に伝わるように工夫することが重要となる。Cグループは選択肢エの割合が多いが、これは、問題の①～③までの条件をすべて満たしていないものである。Cグループでは無答の割合も多いことから、伝えたい内容の書き方がわかっていない児童が多いことが推測される。

手紙を書くこととは直接つながらないにしても、取材メモや組み立てメモにはどのような意味があり、どのような効果があるのかを意識して書かせること、またそれらを基に文章を書かせることで、相手に伝えるための工夫を学び、また、前後の語句や文のつながりを考えて一文を書くことにつながると考えられる。

⑧ 国語の授業で、本や文章を読んで内容をまとめたり、考えたことを伝えあったりしている（いた）

選択肢1 当てはまる

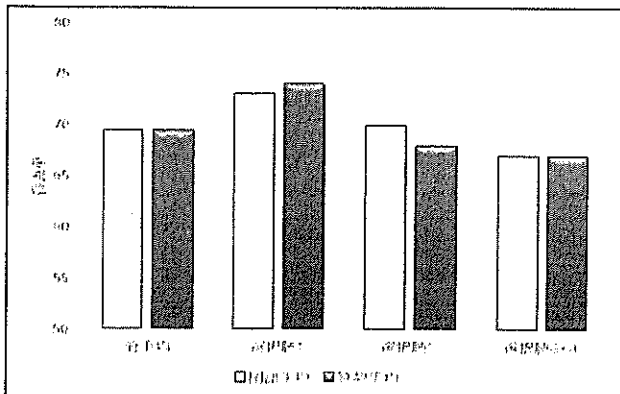
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる

選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない

選択肢4 当てはまらない

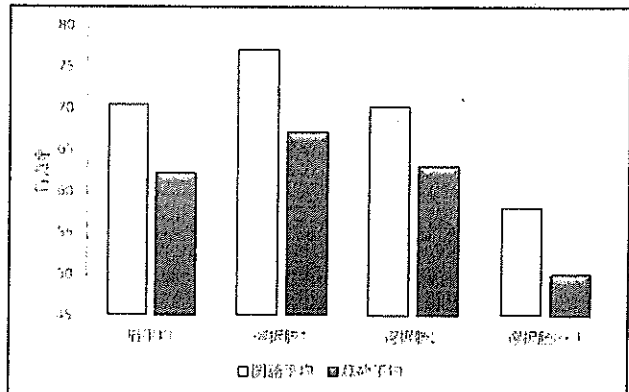
<小学校4年生の結果>

質問9	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	3743人	38%	156人	41%	73点	74点
選択肢2	3904人	39%	158人	41%	70点	68点
選択肢3・4	2287人	23%	70人	18%	67点	67点



<中学校1年生の結果>

質問10	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	5155人	53%	191人	54%	77点	67点
選択肢2	3365人	35%	137人	38%	70点	63点
選択肢3・4	1107人	11%	29人	8%	58点	50点



小4、中1共にA、B、Cグループの平均点数の差は歴然であり、特に中1では、グループ間での差が国語、算数とも顕著であった。先述の質問⑧でも確認されたが、考えたことを伝えあい、話し合うことは重要であり、学習の理解に大きく影響することがうかがえる。

<中学校国語 問題 四の三>

あなた自身の生き方について考えたこと

「一文以上」「二文以上」「三文以上」であなたはどのくらい考えたか

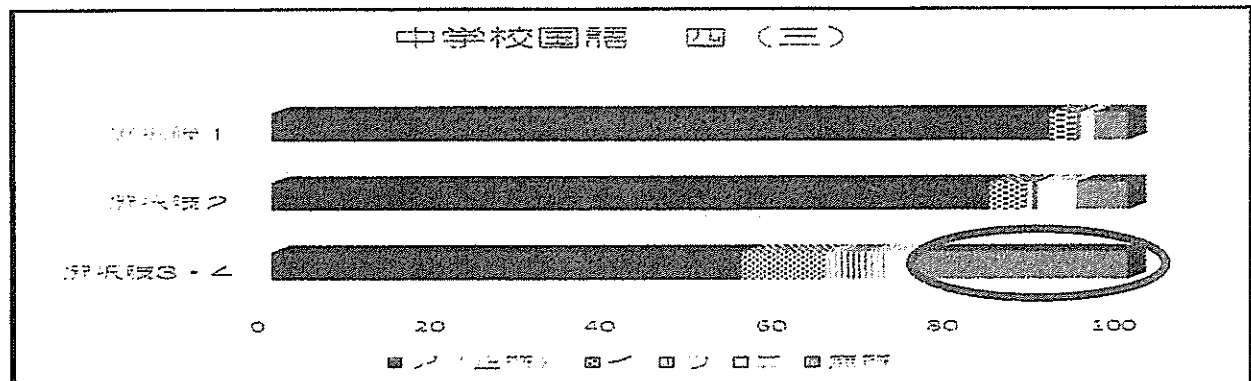
「一文以上」「二文以上」「三文以上」であなたはどのくらい考えたか

「一文以上」「二文以上」「三文以上」であなたはどのくらい考えたか

【選択】

「一文以上」「二文以上」「三文以上」であなたはどのくらい考えたか

	選択肢 1	選択肢 2	選択肢3・4
ア（正答）	91%	84%	55%
イ	3%	4%	10%
ウ	1%	2%	7%
エ	1%	4%	3%
無答	4%	6%	25%



質問⑧で、特に影響が考えられる問題の1つは、中学校1年生の問題四の三である。伝記を読み、人物の生き方と関わらせて自分の生き方について考えることができるかどうか尋ねる問題である。この問題においてCグループの正答率の低さも目を引くが、無答率の高さも看過できない。先ほどの質問⑦と同様に、書き方がわからない生徒が他のグループと比べ、群を抜いて割合が高い。

「本や文章を読んで内容をまとめる」といった要約する活動は、上記の問題のマザー＝テレサの生き方をまず自分なりにまとめ、関連させ、自分の生き方について考えることに大きく影響することは言うまでもない。また、「考えを伝えあう」話し合い活動を充実させることで、他者の考えと自分の考えを比べ、反芻させ、より高い次元に昇華させることは周知である。学習においても能動的に学ぶより、他者へ説明したり、また、他者に教えることでより理解が深まることから、話し合い活動を充実させることで得られる学習効果を考えた上で授業を組み立てることは深い意義があると考えられる。

3 算数の授業に関する質問の回答と国語・算数のテストの結果

⑨、⑩は、算数の授業に関する質問である。「2 国語の授業に関する～」と同様、Aグループ、Bグループの国語・算数の平均正答率は、Cグループの児童・生徒の平均正答率より高く、また、先ほどとは逆に算数の授業に関する質問であるが、国語のテストの結果にも大きな差が生じていることがわかる。

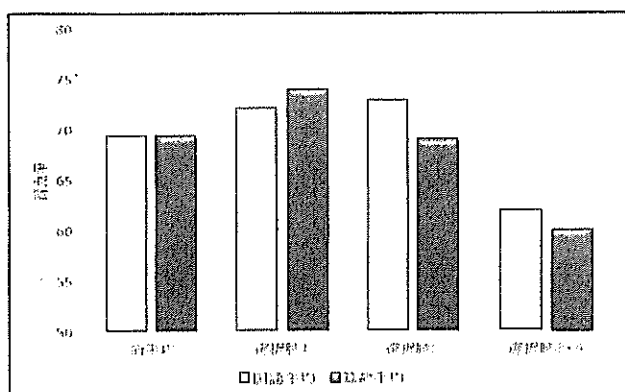
以下は、⑨、⑩の質問への回答と特に相関係数が高い算数の問題をピックアップし、分析する。

⑨ 算数の授業で、問題をとくとき、前に学習したことを使っている（いた）

選択肢1 当てはまる
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる
選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない
選択肢4 当てはまらない

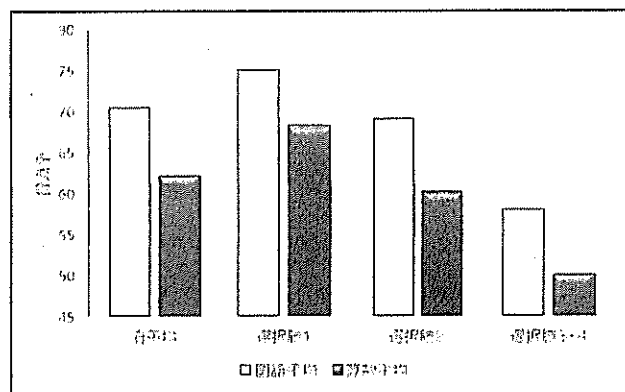
<小学校4年生の結果>

質問12	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	5813人	58%	219人	57%	72点	74点
選択肢2	3093人	31%	117人	30%	73点	69点
選択肢3・4	1005人	10%	48人	13%	62点	60点



<中学校1年生の結果>

質問13	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	6195人	64%	236人	64%	75点	68点
選択肢2	2881人	30%	106人	30%	69点	60点
選択肢3・4	574人	6%	21人	6%	58点	50点

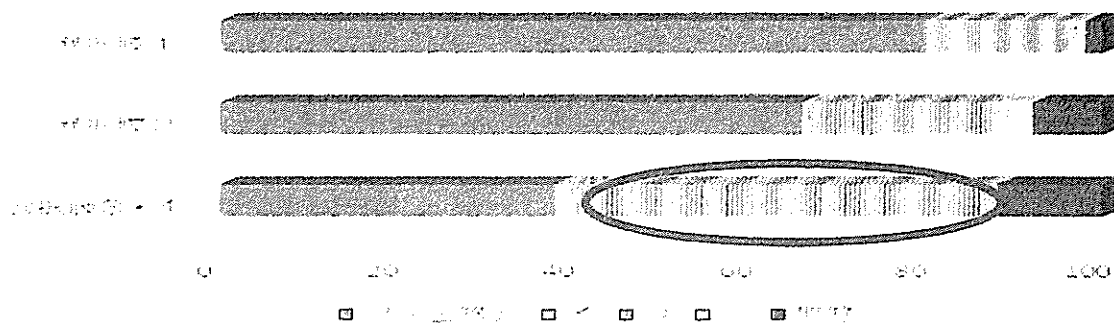


結果から、小学校4年生、中学1年生共、A・Bグループと、Cグループでは、国語・算数とも平均点に大きな差が見られた。当然ながら、算数では特にその差が顕著であった。既習事項を生かし新しい知識にたどりつく算数科の学習において、単に方法を教えるだけでなく、既習事項を生かした授業計画が大切であることをうかがわせる結果となった。

<小学校算数 問題 25>

	選択肢1	選択肢2	選択肢3・4
ア（正答）	80%	66%	38%
イ	0%	1%	4%
ウ	17%	21%	46%
エ	1%	4%	0%
無答	2%	8%	12%

小学校4年生 25

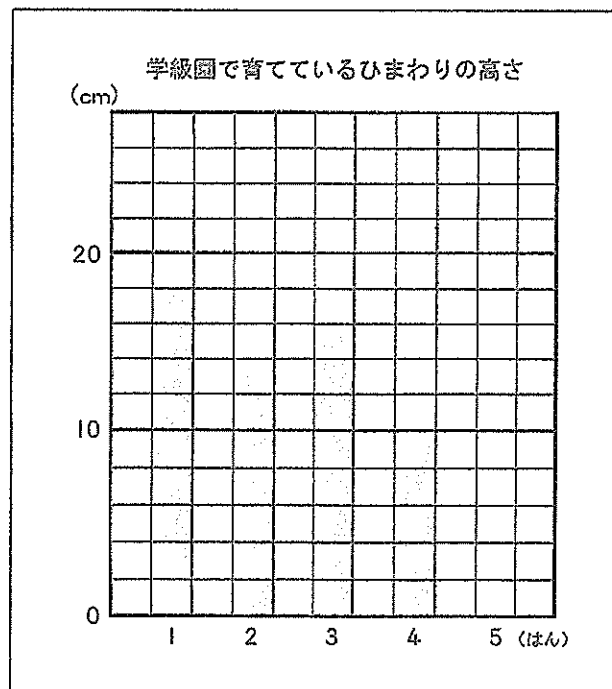


25 たかしさんは、学級園で、はんと育てているひまわりの高さを、たかしさんは、それぞれのはんと育てているひまわりの高さの表をわかりやすくするために、ばうグラフをとちゅうまでかきました。

学級園で育てているひまわりの高さ

はん	ひまわりの高さ (cm)
1	18
2	14
3	16
4	10
5	12

つづきをかいて、ばうグラフを完成させなさい。答えは解答用紙にかきなさい。



質問⑨で、特に影響があると思われる問題の1つは、小学校4年生の問題25で、A・BグループとCグループでは正答率の差が顕著になった。問題25では、表を読み取り、棒グラフをかくことができるかどうかみる問題であり、Cグループの誤答の中でも選択肢ウを選んでいる児童が多い。誤答ウはグラフ6個分（1目盛りが2cm）でも12個分（1目盛りが1cm）でもない読み違いである誤答であり、無答の割合の多さと併せて、グラフを読むスキルの低さがうかがえる。

グラフは数量を視覚的に捉えやすくするためのものであり、問題25のように1目盛り2cmとするのは、より数量が捉えやすく、さらに読みやすくするためのものである。この1目盛り1以外の数を表す考えは、数直線でも、さらには時計などでも用いられており、既習事項を応用した表現である。

今まで学習してきたことや、自分自身が経験してきたことなどを使って、自分なりの考えを明らかにすることは大切なことである。また、スパイラルに学習が進む算数において、既習事項を積み重ねることで新たな知識につながり、また、既習事項をさらに定着させることが新しい事項の理解につながる。新しい単元において、単に計算や公式を教え込むのではなく、導入前にレディネスを確認し、既習事項を積み重ね新たな知識を発見させる経験（喜び）を重視した授業計画を立てることが大切である。

⑩ 算数の授業で、自分で問題をとくとき、絵や図、ことばの式を使って考えている（いた）

選択肢1 当てはまる
選択肢2 どちらかといえば、当てはまる
選択肢3 どちらかといえば、当てはまらない
選択肢4 当てはまらない

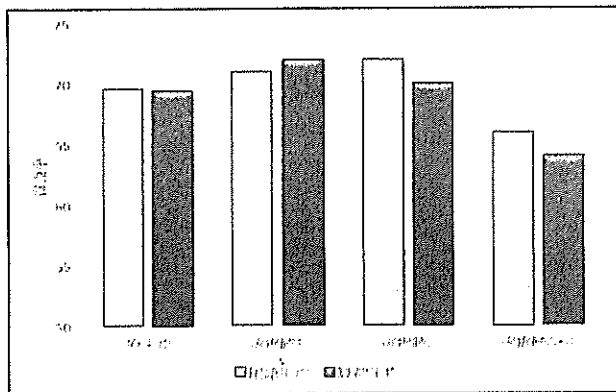
<小学校4年生の結果>

質問13	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	5151人	51%	214人	56%	71点	72点
選択肢2	3257人	33%	130人	34%	72点	70点
選択肢3・4	1534人	16%	40人	10%	66点	64点

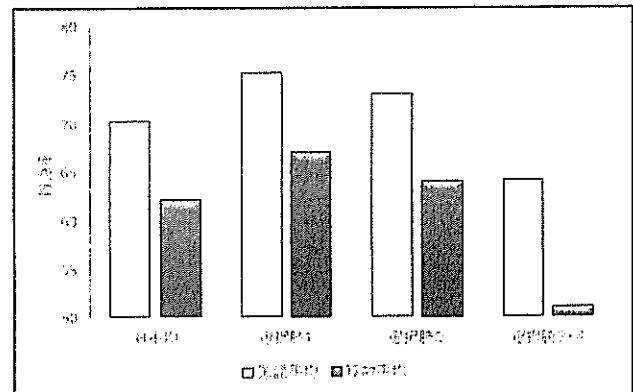
<中学校1年生の結果>

質問14	京都府		精華町			
	人数	割合	人数	割合	国語平均	算数平均
選択肢1	5077人	53%	186人	52%	75点	67点
選択肢2	3365人	35%	132人	37%	73点	64点
選択肢3・4	1184人	12%	39人	11%	64点	51点

<小学校4年生の結果>



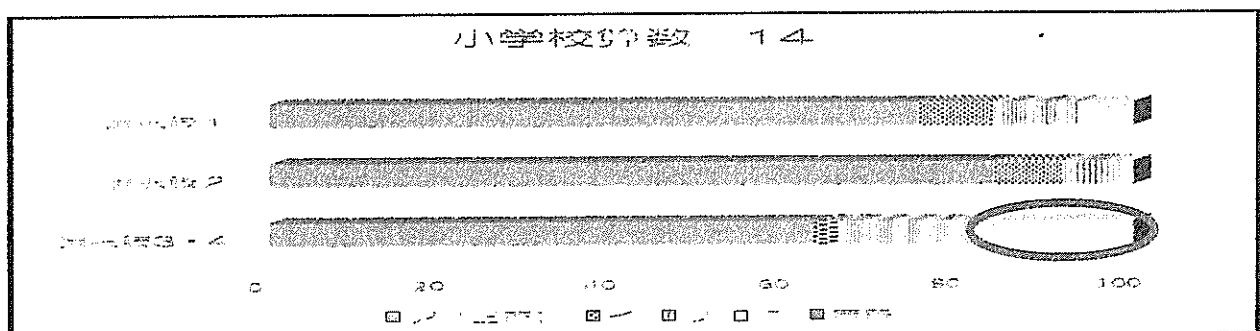
<中学校1年生の結果>



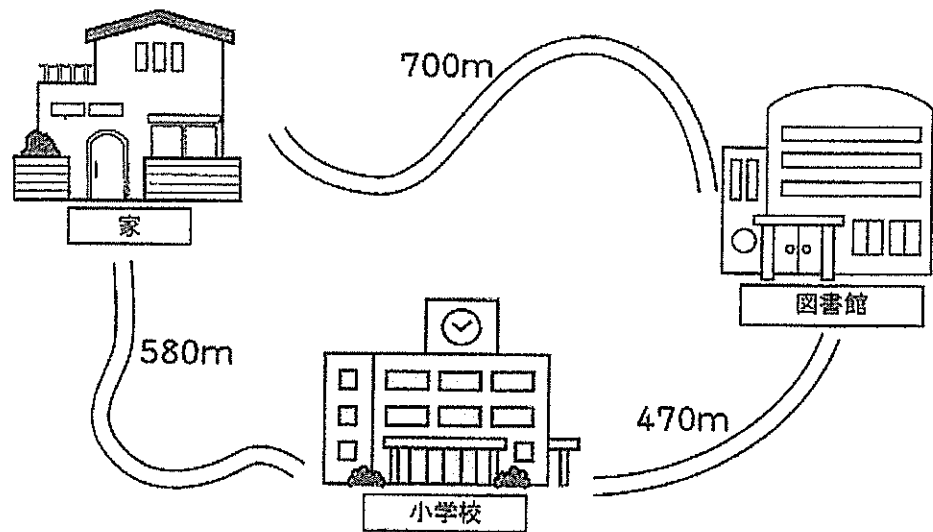
質問⑩同様、小学校4年生、中学1年生共、Aグループ、Bグループと、Cグループでは、国語・算数とも平均点に大きな差が見られた。中学校1年生の算数では特にその差が顕著であった。図や式、グラフや表など算数にはたくさんの表現方法があり、そのよさを実感しつつ活用する力が、学力に大きな影響を与えることがうかがえる。

<小学校算数 問題 14>

	選択肢1	選択肢2	選択肢3・4
ア（正答）	75%	84%	63%
イ	9%	8%	3%
ウ	10%	7%	17%
エ	6%	1%	17%
無答	0%	0%	0%



- 14 ゆみさんは、家から小学校の前を通過して、図書館まで行きます。
その道のりは何km何mですか。あとのア～エからえらびなさい。



- | | | | |
|---|------------|---|------------|
| ア | 1 km 50 m | イ | 1 km 150 m |
| ウ | 1 km 500 m | エ | 1 km 750 m |

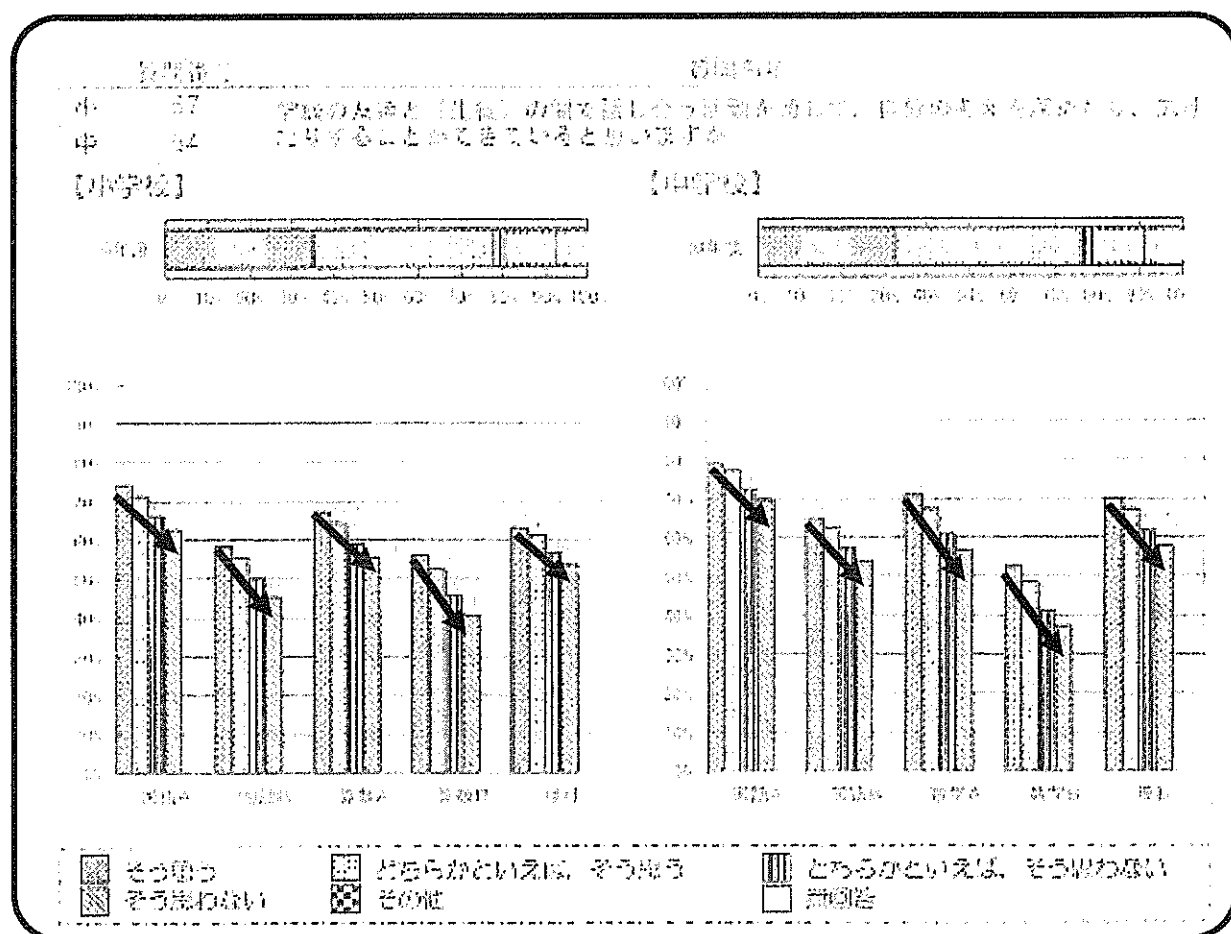
質問⑩で、特に影響があると思われる問題の1つは、小学校4年生の問題14で、A・Bグループは75%以上の高い正答率がある反面、Cグループでは63%という低い正答率という結果となった。誤答の中で他と比べ、特に割合が多いのが誤答エ(1 km 750 m)である。誤答エは、図のすべての数字をたしたものであり、Cグループには問題文を正しく理解できていない児童の割合が多いことがわかる。

数字や図、式は、算数において課題を考える時により効率的により便利にするツールであり、数学的な思考をより論理的に進めるために不可欠なものである。問題14においても、問題文や図が複雑ならば、新たに数直線や簡易な図にかき替えることで問題が安易なものとなる。

授業において、課題解決にあたる時、児童1人1人が考えた方法は多様であり、その多様性を認めることが大切である。また、解決方法を話し合わせたり伝え合わせたりすることで、児童が多くの考え方や算数的表現に触れ、そのよさを感じさせる機会となる。その経験が児童の考え方や表現方法の幅を広げることを授業の中でも意識したい。

4 まとめ ～全国学力・学習状況調査の結果と併せて～

以下は、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における質問紙調査より、2 つの質問をピックアップしたものである。



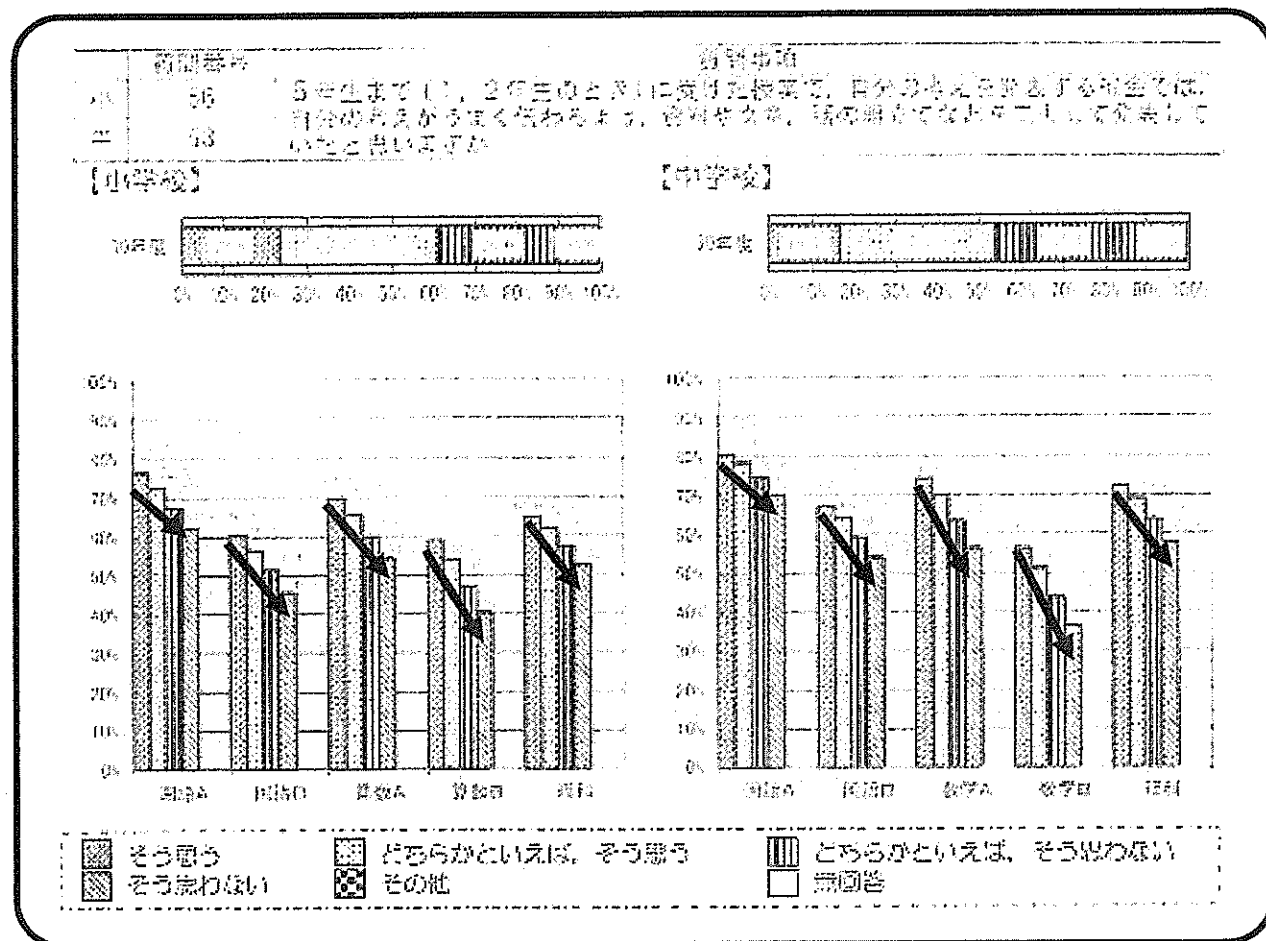
上記の質問は、授業における話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりした経験について尋ねたものである。どのテスト結果も、「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」とグラフが右に移るにつれ正答率が低くなっている。また、矢印の傾きをみるため、「そう思う」と回答した児童・生徒の正答率から「そう思わない」と回答した児童・生徒の正答率の差（黒矢印の傾き）を下の表にまとめた。

＜（「そう思う」児童・生徒の平均）－（「そう思わない」児童・生徒の平均）＞

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
小学校	14.1	14.8	15.5	18.7	12.4
中学校	10.4	13.1	17.9	20.0	14.6

どの教科も「そう思う」と回答した児童・生徒の平均点は、「そう思わない」と回答した児童・生徒の平均点より 10 点以上の差があることがわかる。加えて特記すべきは、国語Aと国語B、算数Aと算数Bの数値が大きく離れているということである（国語では小学校で 0.7 ポイント、中学校で 2.7 ポイント、算数では小学校で 3.2 ポイント、中学校で 2.1 ポイントの差）。すなわち、活用問題において「話し合い活動」の経験が大きく影響することがうかがえる。また、算数においてはその差が大きく、先述の通り算数において「話し合い活動」を重視すべきであることは、全国学力・学習状況調査における質問紙調査の結果からも示されている。

現在も多くの授業において、話し合い活動は取り入れられている。しかし、ただ話し合わせるのではなく、子どもたちが考えを深め広げるためことを目的とななければならない。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、子どもたち同士の協働、教職員や地域の人々との対話などを授業の中で計画的に取り入れることが大切である。



＜（「そう思う」児童・生徒の平均）－（「そう思わない」児童・生徒の平均）＞

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
小学校	11.7	13.0	11.7	15.4	9.6
中学校	9.4	11.0	14.1	15.3	12.2

この質問においても、「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」とグラフが右に移るにつれ正答率が低くなっている。黒矢印の傾きも前の質問と同様で、国語Aと国語B、算数Aと算数Bの数値の差がみられる（国語では小学校で1.3ポイント、中学校で1.6ポイント、算数では小学校で3.7ポイント、中学校で1.2ポイントの差）。発表における準備や話し方の組み立ての工夫が活用問題の結果に大きく影響したことがうかがえる。

「1 授業に対する質問の回答と国語・算数のテストの結果」でも述べたように、発表することの重要性もさることながら、自ら課題を設定し、課題解決に向けて自ら資料や情報を集め、内容を整理し発表した経験が学力に大きく影響する。また、「2 国語の授業に関する質問の回答と、国語・算数のテストの結果」の質問⑦でも述べたように、国語科において、取材メモや組み立てメモの効果を教える側はもちろんのこと、学ぶ側が意識し、それらを基に文章を書かせることで、相手に伝えるための工夫を学ぶことができる。相手を意識して自分の思いを伝えるための準備（資料・情報を集め

る、話し方を工夫するなど）が、学力にも大きく影響することを心に留め、授業において、発表の機会を設定すること、またその時、自分の考えの根拠や自分の意見を伝えるための話し方の工夫を考えさせる指導を大切にしたい。

以上、全国学力・学習状況調査における質問紙調査の結果と関連し考察しても、意義を十分理解した上での「話し合い活動」が学力に与える影響の大きさは明らかであった。また、話し合い活動が算数科の学習習熟に及ぼす多大な影響も明白であり、今後の算数科における授業改善のキーワードとなると考えられる。

「発表の機会を与えること、及び発表に向けての準備」においても学力との相関が強くみられ、自分の考えを（論理的に）どう伝えるか、どう話すと効果的か考えることが重要であるとの結果がみられた。国語科において、取材したことをまとめ、発表するという単元があるが、取材メモや構成メモの在り方やその意義を十分に把握し、児童・生徒に発表においてそのメモが効果的に活用できる力をいかに育成するかが、授業改善のカギとなると考えられる。

上述の2つの項目は特に全国学力・学習状況調査の活用問題（B問題）で大きく影響が出ていることから、発展的な学力の素地をつけるために不可欠な要素であることは言うまでもない。

加えて、「めあて」に関する質問の回答についても興味深い結果がみられた。特に小学校4年生では、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた。」という質問に対して、選択肢3・4（否定的な回答）を選択した児童は、他を選択した児童と比べ得点率が大きく下がった。しかし、この選択肢3・4を選んでいる児童は33人と精華町の小学校4年生の9%であり、どの教室でも「めあて」を掲示した授業が行われていることがわかる。したがって、「めあて」を示す場合、いかにめあてをつかませるかということが大切であり、子どもたちが見つけた疑問を解決したくなるような「めあて」を実態に合った言葉で示すことを心掛けたい。また、めあては授業を通して何をするのか、何ができるようになるのか等、授業のゴールを見通せる具体的なものが望ましい。

他にも国語科や算数科の学習についてもいくつかの提起したが、今後の授業改善の一助になれば幸いである。

京都府学力診断テストの分析から見えてきたこと

～すべての教職員の皆さんへ～

精華町学力向上総合推進委員会（小学校部会）

「精華町学力向上総合推進委員会」では、すべての子どもたちの「質の高い学力」の育成に向けて、京都府学力診断テストの分析をもとに、授業改善や指導方法の工夫について研究、推進しています。この研究を進める中で見えてきた課題解決のためのポイントについてまとめました。再度確認をし、学校・学級経営に生かしてください。

学力課題の分析

- ・児童個々の課題分析を客観的な視点で行う。
- ・学級、学年の課題についても分析する。
- ・指導の系統性を重視した分析を行う。
- ・課題解決のための仮説を立てる。
- ・具体的な手立て（支援）を明確にする。
- ・経年比較により、手立てについて評価し、新たな仮説を立てる。
- ・学校全体で課題や手立ての共有化を図る。
- ・「育みたい力」見える化シート（山城版）を活用する。

基本的生活習慣の確立

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付けさせる。
- ・学年、学校で統一した目安の時間を提示し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・学校のきまりや規則を守ることを日常的に意識する。
- ・テレビの視聴時間、ゲーム等をする時間について家庭できまりを決め、約束を守る。
- ・家庭での読書習慣を身に付ける。
- ・携帯電話、スマートフォン等の使用についての約束を家庭でも設定する。

授業改善 ユニバーサルデザインの視点

教材研究・授業研究

- ・単元の目標、本時の目標を達成するための授業展開を創造する。
- ・系統性を重視し、既習内容の定着具合と未習内容とのつながりを確認する。
- ・個別の仮題設定により、目標の達成に努める。
- ・視覚に訴える教材・教具の工夫を図る。
- ・指導と評価の一体化した授業づくりを推進する。
- ・話し合い活動など言語活動を充実させ、思考力の高まる授業を目指す。

家庭との連携 他校種との連携 関係機関との連携 地域人材の活用

授業改善・指導方法の工夫

- ・個に応じた指導を重視する。
- ・単元目標、本時の目標達成の為に授業を展開する。
- ・ICTを活用し、学習への意欲を高める。
- ・習熟度別授業などを活用し、基礎・基本の知識理解の定着と活用する力の伸長を図り、自己有用感を高める。
- ・発問や板書を工夫し、すべての児童が意欲的に授業に取り組めるようにする。
- ・授業の始めにめあてを明確にし、授業の終わりに、まとめ・振り返りをする。

京都府教育振興プランにおける目標値

- ・京都府学力診断テストにおける正答率50%未満の子どもの割合、10%以下
- ・学校以外での勉強時間が30分に満たない子どもの割合、10%以下
- ・国語や算数の勉強が好きな子どもの割合、増加させる。
- ・早寝・早起きが身に付いている子どもの割合、全国平均以上
- ・朝ごはんを毎日食べる子どもの割合、95%以上
- ・特別な支援を要する子どもの個別の教育支援計画の作成、100%
- ・保幼、家庭と連携して交流活動を実施している小学校、100%
- ・一斉読書の時間を週1回以上設けている学校の割合、100% など

質の高い・わかる授業を目指して

～せいか授業スタンダードの確立に向けて～

【京都府教育振興プラン基本的方針より】

教育基本法・学校教育法において、

①「基礎的・基本的な知識・技能の習得」

②「知識・技能を活用して課題を解決するため必要な思考力・判断力・表現力」

③「主体的に学習に取り組む意欲・態度」 が、学力の重要な3つの要素として示されています。

京都府では、これらの要素を統合した学力を「質の高い学力」として捉え、互いに支え、協力し合う学びの集団を基盤とした主体的・協働的な学習を通してその力をはぐくみ、生涯にわたって自ら学び自らを高め、未来を見通し切り拓く力が身につくよう取組を推進します。

精華町学力向上総合推進委員会では、すべての子どもたちが「質の高い・わかる授業」を受けられるよう京都府学力診断テストの分析をもとに主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や指導法の工夫についての研究を行っています。各校の実践をもとにそのポイントをまとめました。

A：授業規律・態度の確立

- ・チャイムに合わせた始業・終業に努める。
- ・教室の環境整備に努める。
- ・全員が静かになってから話し始めるなど、聞く姿勢や態度の指導を徹底する。

B：授業スタイルの確立

- ・適切なめあてを提示する。
- ・まず自力で解決しようとし、その後、グループなど、複数で話し合い、深める場面を設定する。
- ・本時のまとめをし、自分の学びを振り返らせる。
- ・「やましろ授業スタンダード」の活用

C：ユニバーサルデザインの視点

- ・配慮を要する児童など個別支援に努める。
- ・チョークの色や文字の大きさを工夫して板書する。
- ・発表に対して、うなずいたりほめたりするなど、児童に共感し自己肯定感を高めさせる。

D：評価

- ・指導と一体化した評価を行う。
- ・毎時の評価規準を明確にし、適切に行う。

チェックリストの作成

例		質の高い・わかる授業を目指して	〇〇小学校	
		チェック内容	評価	備考
A	1	始業のチャイムを授業する教室で聞けましたか。		
	2	教科書やノート・筆記用具等必要な物が机の上に置かせていますか。		
	3	全員が静かになってから、児童に話しかけましたか。		
B	4	授業の内容を理解しためあての掲示ができましたか。		
	5	児童が話し合い深める、機会がありましたか。		
C	6	本時のめあてに対して、児童が振り返り、まとめることができましたか。		
	7	板書計画に基づき、チョークの色や文字の大きさなど工夫できましたか。		
	8	配慮を要する児童に対して個に応じた指導ができましたか。		
D	9	児童の意見を大切にし、うなずいたり褒めるなどの機会をもちましたか。		
	10	本時のめあてに対しての個別評価ができましたか。		

授業研究会等での活用
授業改善・わかる授業の創造

お わ り に

京都府学力診断テストの結果について、精華町の子どもたちの正答率は、小学校4年生の国語・算数及び中学校1年生の国語・数学(算数)のいずれも京都府・山城教育局管内の正答率を上回っており、概ね良好であります。これは、各校が着実に授業改善を進めてきている成果であると考えられます。

しかし、ここ数年の結果を遡り、今年度の結果を見てみますと、昨年度に比べて、小学校4年生の国語・算数の京都府・山城教育局管内とのその開きは小さく、わずかに正答率を上回る結果となっています。また、中学校1年生の数学(算数)の京都府・山城教育局管内の上回るポイントも過去5年間を比べてみると年々小さくなってきています。また、例年課題となっている小学校4年生における国語の「修飾語」の問題など京都府より正答率の低い問題もあります。更に、条件を指定して限られた文字数(30字以内)で文章を書く問題での無回答の割合が高いことも課題です。

精華町学力向上総合推進委員会(小学校部会)は、これまで培われてきた分析の手法を生かして、正答率の低い問題を中心に分析し、「授業改善のポイント」「改善に向けての指導アイデア例」など解決に向けた手立てを提案しています。これらに取り上げられた単元は、学力診断テストを受ける児童・生徒の前年度の学年の単元だけではなく、教員が、指導内容を系統的に理解し授業改善を進めていく観点から、1学年からの単元も取り上げました。各校、各学年が日々の授業で生かしていけるようになればと考えています。また、「児童・生徒質問紙調査から見えてくるもの」について、今年度は、「授業改善」にテーマを絞り、授業に関する質問に対してその回答状況と正答率の相関関係の分析を行いました。今後の授業を改善する効果的な取組について提案しています。

さて、平成29年3月に新学習指導要領が公示され、既に移行期間がスタートしています。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが総則に明記されていますが、このことは、みんなで学び合い、知識や経験を共有することで新しい知恵を生み出すという私たち教員が今まで大切にしてきた教育活動でもあります。その実践や蓄積を生かして、子どもたちの知識の理解の質を高めるため、単元や題材といった内容や時間のまとまりを見通して授業を工夫・改善することが求められています。

- ・本冊子で取り上げた問題における自校の結果を深く分析する。
- ・年間指導計画や週案等に、単元に関連する「授業改善のポイント」「改善に向けての指導アイデア例」を貼り付け、実践に生かす。
- ・「改善に向けての指導アイデア例」をもとに、職員研修等で模擬授業をする。
- ・国語の「修飾語」についての研究授業をする。
- ・条件に沿った文章を書く機会を日常的に設定する。 等

本冊子が各校において十分活用され、指導方法の工夫・改善の一助となることを願っています。そして、様々な実践が交流・共有され、組織的な授業改善が進み、精華町の未来を生き抜く子どもたち一人一人にさらに「質の高い学力」が身に付くことを期待いたします。

精華町学力向上総合推進委員会

小学校代表 小長谷 佳代子

